

唄 孝一先生略年譜

1924年（大正13年）	3月18日	大阪府堺市に生まれる
1930年（昭和5年）	4月	大阪府堺市立市小学校入学
1936年（昭和11年）	4月	大阪府立堺中学校入学
1940年（昭和15年）	4月	第三高等学校入学
1942年（昭和17年）	10月	東京帝国大学法学部政治学科入学
1944年（昭和19年）	9月	入隊休学（1945年10月1日まで）
1947年（昭和22年）	3月	東京帝国大学法学部政治学科卒業
1947年（昭和22年）	10月	東京大学大学院特別研究生（1950年9月修了）
1951年（昭和26年）	4月	東京都立大学人文学部講師
1952年（昭和27年）	4月	東京都立大学人文学部助教授
1957年（昭和32年）	4月	東京都立大学法経学部助教授
1960年（昭和35年）	6月	東京都立大学法経学部教授
1961年（昭和36年）	4月	東京大学医学部非常勤講師（1984年3月まで）
1966年（昭和41年）	4月	東京都立大学法学部教授
1966年（昭和41年）	4月	東京都立大学教養部長（1969年3月まで）
1969年（昭和44年）	12月	日本医事法学会創立、理事・事務局長
1970年（昭和45年）	2月	在外研究（1971年2月まで）
1970年（昭和45年）	8月	世界医事法学会副会長
1971年（昭和46年）	4月	東京都立大学法学部長（1973年3月まで）
1979年（昭和54年）	12月	日本医事法学会代表理事（1998年1月まで）
1983年（昭和58年）	2月	東京大学医学博士
1987年（昭和62年）	3月	東京都立大学定年退職
1987年（昭和62年）	4月	北里大学医学部教授
1987年（昭和62年）	6月	東京都立大学名誉教授

1989年（平成元年）6月	東京大学法学博士
1991年（平成3年）3月	ベルギー・ゲント大学 doctor honoris causa
1992年（平成4年）6月	日本学士院賞（「医事法学の研究」につき）
1994年（平成6年）3月	北里大学定年退職
1994年（平成6年）4月	北里大学客員教授
1994年（平成6年）11月	叙勲（勲二等瑞宝章）
2000年（平成12年）1月	武見記念賞
2003年（平成15年）11月	文化功労者
2006年（平成18年）8月	世界医事法学会 WAML Medalion
2011年（平成23年）1月11日	逝去 正四位に叙せられる。

刊行のことば

本文献目録は、唄孝一先生の60有余年に及ぶご研究生活から産まれた数多くのご業績を編年体で配列し編成したものである。内部資料的であって、一般にアクセスするのがむずかしいと思われるものは省かれている。

唄先生は、一つの学問がその時代の必然として生成・発展していった過程をしっかりと証拠づけることを自らの課題として、およそ医と法と倫理に関わる国内外の資料を長年にわたり蒐集するよう努めてこられた。それらに家族法関係の一部を加えた膨大な資料文献の目録は、すでにかなり調整されている。コレクション自体は明治大学に収蔵されており、さらにこれを継続・拡充することを含めて、「医療と法と倫理（ELM）専門総合資料館」（仮称）創立推進事業準備室の現責任者小西知世准教授をはじめ同準備室のスタッフ各位が鋭意その作業を続けておられる。整理の作業が完了し、蒐集された資料が広く後進の閲覧利用に供されることは、唄先生の「積年の悲願」であったが、その日を見ることなく、本年1月11日先生は永眠された。

私ども「唄孝一先生を偲ぶ会」の発起人は、唄先生を偲んでみなさまがご参集くださる機会に、このようなかたちであれ先生の文献目録を作成し、先生が駆け抜けて去ってゆかれた時代とそこにおけるご研究の歩みをごいっしょに振り返り、想いを寄せていただければこれに勝るよろこびはないと思い、この目録を上梓することとした。

他日補正されるべき遺漏や過誤を免れないとしても、思い定めてから約半年を経た今秋、ここまで漕ぎつけることができたのは、三木妙子氏の格別の繊細かつ精力的な校訂と、上記準備室のスタッフ各位のご支援の賜である。また、過去に一再ならず作成されたことのある先生のご業績目録や、先生ご編集による『医療と法と倫理——資料文献目録』（2000年、2005年）は存分に利用させていただいた。そして、それらの作成にたずさわった大勢の門下生その他の方々のこれまでのご尽力にたいしても、あらためて深く感謝を申し上げる。

2011年9月11日

「唄 孝一先生を偲ぶ会」発起人一同

凡 例

- (1) 本文献目録は、「刊行のことば」に記された方針にしたがい、編年順に配列した。

ただし、連載論稿については、各回毎に分断して配置することをせず、当該連載の初回分に続けて、「完」にいたるまで一括列記した。なお、連載と表記されていなくとも、それに準じる内容をもつばあいと同様の扱いをした例もある。

- (2) 本目録はもとより唄孝一先生の執筆による文献を収載することを主目的とするが、そこには例外も混在している。それは、シンポジウム・座談会・研究会等における唄先生の発言記録であったり、インタビュアーの問いに対する先生の答を報道する記事であったりする。

- (3) 発行年月欄の数字、たとえば194905は1949年5月の刊行であることを示す。発行年を示す数字のうしろに99とあるのは、月不明を意味する。

発行年月の記載が当該文献にみられないが、推測しうると考えたばあいは、推測した数字を記入し、その数字を〔 〕で囲んだ。

- (4) 複数の文献の発行年月が同一であるばあい、それらの配列の順序は発行年月日の先後によって決めた。

- (5) 一冊の書籍（単行書）または特定の雑誌の特定の巻号に、本目録に収載すべき複数の論稿がふくまれるばあい、それらの配列の順序は各論稿がはじまる最初のページの先後にしたがって決定した。

- (6) たびたび引用する必要が生じた唄先生の以下の著作については、次のとおり略称を用いた。

『唄孝一・家族法著作選集』第1・2・3・4巻→『選集』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ

『医事法学への歩み』→『歩み』

『臓器移植と脳死の法的研究—イギリスの25年』→『臓器移植と脳死（イギリス）』

『生命維持治療の法理と倫理』→『生命維持治療』

書名／表題	掲載誌／巻号 掲載紙／年月日 発行所等	発行 年月	備 考
■1949年（昭和24年）			
〈研究討論会〉法律社会学前進のために	法律時報 21巻5号	194905	民主主義科学者協会（＝民科）政治法律部会全3回（1949年1月～3月）の研究集会速記録の抜すい 【発言者】長谷川正安（司会），阿利莫二，平野義太郎，磯野誠一，川島武宜，門上秀叡，近藤享一，中村宗雄，唄孝一，石村善助，戒能通孝，熊倉武，野村平爾，杉之原舜一，杉山晴康，幼方直吉，加藤一郎，山中康雄，横越英一，鈴木哲太郎，潮見俊隆，渡辺洋三，山之内一郎 【再録】民科法律部会〔編〕『法社会学の諸問題』（法社会学 別巻），国書刊行会（197711）
〈世論調査〉婚約期における愛情と貞操	評論 35号（特集＝科学が載る・性と現代風俗） 河出書房	194909	【共同執筆者】鈴木穂高，田中英夫（東大婦人問題研究会）
イェーリング〔著〕『法における目的（一）』（世界古典文庫124）	日本評論社	194911	【共訳者】潮見俊隆
■1950年（昭和25年）			
不法条件—受贈者の帰郷居住を停止条件とする 土地家屋の贈与契約 —最判昭和23. 9. 18（民集2. 10. 231）	判例研究 2巻6号 （東京大学判例研究会発行，有斐閣発売）	195012	【共同執筆者】川島武宜
■1951年（昭和26年）			
氏の変更につきやむを得ない事由—特殊部落民の氏変更の申立 —東京高決昭和24. 5. 19（高裁民集2. 1. 77）	判例研究 3巻1号 （東京大学判例研究会発行，有斐閣発売）	195106	【共同執筆者】来栖三郎
〈今月の研究〉婚姻予約不履行に基く慰藉料請求	ケース研究 9号	195109	東京家裁のケース研究会（昭和25年11月21日）における発言記録 【出席者】市川四郎（司会），唄孝一ほか裁判官・調停委員（我妻緑・田辺繁子・大浜英子を含む）合計27名（うち22名発言）

■1952年（昭和27年）

氏の変更につきやむを得ない事由一家名相続のための氏変更の申立 —東京高決昭和24. 8. 29（高裁民集2. 2. 167）	判例研究 3巻3号 （東京大学判例研究会発行、有斐閣発売）	195202	【共同執筆者】川島武宣
長野県上山田町における相続形態	日本私法学会相続調査会 〔編・著〕『農家相続の実態—農家別調査資料』 農林省農政局	195203	日本私法学会民法部会により昭和26年度から始まった相続にかんする全国の実態調査（主任研究者 中川善之助）の中間報告の一部 東部地区（責任者 我妻栄，調査参加者19名）の調査地の1つ上山田町調査（昭和26年9月6日～10日，調査戸数21戸）に参加した唄講師（当時）が直接聴き取り調査に従事した戸数は9戸，単独執筆は5戸分
信州リンゴ村における相続の実態—1951年の上山田町	未公開（ゲラ刷り*）	19〔52〕 〃 19〔53〕	*「昭和28年3月までに刊行の予定」であった上掲全国調査のとりまとめ報告書のための論稿か 【公刊】『選集』IV第3章
〈書評〉家族法の課題—穂積先生追悼論文集（「家族法の諸問題」）に寄せて	法律時報 24巻10号	195210	
家庭裁判所の審判に対する即時抗告と代理人 —東京高決昭和25. 3. 2（高裁民集3. 1. 24）	法学協会雑誌 70巻1号	195211	【共同執筆者】溝呂木南太郎 【再録】『選集』II附録2
「戸籍法上の氏変更」をめぐる諸問題—中間報告にかわる覚書	家庭裁判月報 4巻11号	195211	

■1953年（昭和28年）

『家族法参考文献目録』	家庭裁判所資料第30号 最高裁判所事務総局家庭局	195301	【編集】
離婚と氏—「氏の変更」の一つの問題	ケース研究 昭和28年1号（通号18号）	195301	
家族制度—民法改正史の一齣	思想 348号 （特集・占領と日本）	195306	【再録】『選集』I第1章
〈学会記事〉第9回法社会学会に思う	法社会学 4号	195307	
学生の選挙権と住所	中央公論 783号	195312	【再録】『選集』IV第6章

■1954年（昭和29年）

家族制度復活は危険／大衆を非政治化するもの （憲法改正の問題点特集）	中央大学新聞 昭和29年5月25日	195405	
農地所有者の内縁の妻と血縁関係にある世帯員 は自作農創設特別措置法第4条第1項の「農地の 所有者の同居の親族」にふくまれるか —最判昭和25. 3. 28（民集4. 3. 109）	判例研究 4巻1号 （東京大学判例研究会発 行、有斐閣発売）	195406	
家督相続開始前相続人以外の者に対してなした 被相続人の全財産贈与の効力—その贈与否認と 遺留分減殺請求権の消滅時効との関係 —最判昭和25. 4. 28（民集4. 4. 152）	判例研究 4巻1号 （東京大学判例研究会発 行、有斐閣発売）	195406	【共同執筆者】我妻栄
家名汚瀆を離婚原因とする旧法の規定は、昭和 22年5月3日以降も適用あるか —最判昭和25. 6. 30（民集4. 6. 243）	判例研究 4巻1号 （東京大学判例研究会発 行、有斐閣発売）	195406	
『岐阜県白川村調査報告資料』（5）・（6）	「家」制度研究会資料	195407	【共同調査・執筆者】 福島正夫、唄孝一、清水 誠
『家族制度の復活を防ごう—逆コースの民法改 正に反対する』	青年法律家協会家族法専 門委員会	195407	【共著者】渡辺洋三、唄 孝一、鍛冶良堅、西原道 雄、立石芳枝、久米愛、 渡辺美恵、鍛冶千鶴子
〈座談会〉家庭生活の幸福は何処から	ニューエイジ 6巻8号 毎日新聞社	195408	【出席者】玉城肇、田辺 繁子、唄孝一、佐々木ア イ、佐藤忠勝
住所—第15〔19の誤り〕国会の一つの表情	改造 昭和29年8月号	195408	【共同執筆者】渡辺洋三 【再録】『選集』IV第7章
農村の相続形態			
（1）単独相続と「家」／単独相続の経済的 ・政治的基礎	法律時報 26巻9号 （特集・農村と法律）	195409	【共同執筆者】渡辺洋三 【再録】『選集』IV第2章
（2）財産分割の諸形態／分家／嫁入支度	法律時報 27巻2号	195502	
（3）学資・生計の資本など／末子相続 土地持ち労働者の分割形態／むすび			

■1955年（昭和30年）

母の歴史を見つめて—家族制度復活に反対する 途	日本読書新聞 昭和30年2月21日号	195502	【再録】『選集』I第4章
『「家」制度研究の成果と課題—第3年度にさし かかって』	「家」制度研究会資料 第14集	1955[03]	
『判例体系 相続編』	我妻栄ほか[編] 第一法規出版	195506	【共著者】我妻栄、唄孝 一
珍氏・奇氏・難氏—家庭裁判所への申立に現れ たる	戸籍 77号	195507	

民法944条所定の資格のない者の申請に基く親族会の決議は当然無効であるか 一大判昭和20.6.13 (民集24.1.30)	民事法判例研究会[編] 『判例民事法』(23) 昭和20年度第4事件 有斐閣	195507	
『氏の変更』上・下 (法律学体系法学理論篇, 第30・31回配本)	日本評論新社	195511 195608	【著書】 【再録】『選集』Ⅱ第1章 ～第4章
家庭裁判所あれこれ	上掲法律学体系月報〔法学理論篇〕『法学展望』No. 31	195608	【再録】『選集』Ⅱ附録1
民法附則 § 11	中川善之助[編著] 『註釈相続法』(下) (註釈民法全書 4) (§ § 960～1044), 有斐閣	195511	
■1956年 (昭和31年)			
戸籍セミナー・出生 (全17回)			【再録】『戸籍Ⅰ 出生戸籍セミナー (1)』(ジュリスト選書), 有斐閣 (195811)
第1回 出生届 (その1) 総論	ジュリスト 97号	195601	【出席者】青木義人, 柴野辰之助, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一, 我妻栄 (座長)
第2回 出生届 (その1) (2) 届出地 子の名	ジュリスト 98号	195601	【出席者】同上
第3回 出生届 (その1) (3) 子の名 (続き) 双生児	ジュリスト 99号	195602	【出席者】青木義人, 岩佐節郎, 柴野辰之助, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一, 我妻栄 (座長)
第4回 出生届 (その1) (4) 日本で生れた外国人と外国で生れた日本人	ジュリスト 101号	195603	【出席者】青木義人, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一, 我妻栄 (座長)
第5回 出生届 (その1) (5・完) 夫の失踪宣告との関係 出生届 (その2) 子の種類・推定をうける嫡出子	ジュリスト 102号	195603	【出席者】同上
第6回 出生届 (その2) 子の種類 (2)・婚姻後200日以内に生れた子	ジュリスト 103号	195604	【出席者】同上
第7回 出生届 (その2) 子の種類 (3)・戸籍法第62条の出生届	ジュリスト 104号	195604	【出席者】同上

第8回	出生届（その2） 子の種類（4）・戸籍法第62条の出生届 （続き）	ジュリスト 105号	195605	【出席者】 同上
第9回	出生届（その2） 子の種類（5）・戸籍法第62条の出生届 （続き） 被認知胎児の出生届	ジュリスト 106号	195605	【出席者】 同上
第10回	出生届（その2） 子の種類（6）・父未定の子の出生届 非嫡出子の出生届	ジュリスト 107号	195606	【出席者】 同上
第11回	出生届（その2） 子の種類（7）・非嫡出子の出生届 （続き） 棄児	ジュリスト 108号	195606	【出席者】 青木義人，岩 佐節郎，新田豊，唄孝 一，平賀健太，村上朝 一，我妻栄（座長）
第12回	出生届（その2） 子の種類（8）・棄児（続き）	ジュリスト 109号	195607	【出席者】 同上
第13回	出生届（その2） 子の種類（9）・棄児（承前） あかの他人の子	ジュリスト 110号	195607	【出席者】 同上
第14回	出生子の入るべき戸籍	ジュリスト 111号	195608	【出席者】 同上
第15回	出生子の入るべき戸籍（承前）	ジュリスト 112号	195608	【出席者】 同上
第16回	出生子の入るべき戸籍（承前） 父母との続柄の表示	ジュリスト 113号	195609	【出席者】 同上
第17回	父母との続柄の表示（承前） （完） 氏名記載の順序	ジュリスト 114号	195609	【出席者】 同上
有泉亨・加藤一郎[編] 『相続』（上）・（下）（法学新書 5）	河出書房	195603 195604	【討論参加者→共著者】 有泉亨，加藤一郎，立石 芳枝，唄孝一，西原道雄	

			日本私法学会第16回大会 の総括報告をめぐる討論 (昭和30年11月1日)
			【発言者】中川善之助 (座長), 青山道夫, 加藤 一郎, 唄孝一, 戒能通 孝, 山木戸克己, 高橋忠 次郎, 川島武宜, 堀内 節, 土屋四郎, 国歳胤 臣, 谷口知平, 末川博, 有泉亨, 谷田貝三郎, 西 沢修, 中川淳, 山崎邦 彦, 山畠正男, 渡辺洋 三, 黒木三郎, 中尾英 俊, 西原道雄, 阿部浩 二, 星野英一, 幾代通, 村教三, 宮崎俊行, 遠藤 浩
〈討論〉新法下における相続の実態	私法 15号	195605	
戸籍セミナー・認知 (全13回)			【再録】『戸籍Ⅱ 認知 戸籍セミナー (2)』(ジュ リスト選書), 有斐閣 (195811)
第18回 認知届	ジュリスト 115号	195610	【出席者】青木義人, 岩 佐節郎, 唄孝一, 平賀健 太, 村上朝一, 我妻栄 (座長)
第19回 認知届 (承前)	ジュリスト 116号	195610	【出席者】同上
第20回 認知届 (承前)	ジュリスト 117号	195611	【出席者】同上
第21回 認知届 (承前)	ジュリスト 118号	195611	【出席者】同上
第22回 認知届 (承前)	ジュリスト 119号	195612	【出席者】同上
第23回 認知届 裁判上の認知と戸籍訂正	ジュリスト 120号	195612	【出席者】同上
第24回 認知届 (附) 最近の一判例をめぐる 一裁判認知と戸籍訂正に関連して (1)	ジュリスト 121号	195701	【出席者】青木義人, 市 川四郎, 岩佐節郎, 唄孝 一, 平賀健太, 村上朝 一, 我妻栄 (座長)
第25回 認知届 (附) 最近の一判例をめぐる 一裁判認知と戸籍訂正に関連して (2)	ジュリスト 122号	195701	【出席者】同上
第26回 認知届 (附) 最近の一判例をめぐる 一裁判認知と戸籍訂正に関連して (3)	ジュリスト 123号	195702	【出席者】市川四郎, 岩 佐節郎, 唄孝一, 平賀健 太, 我妻栄 (座長)
第27回 認知届 (附) 最近の一判例をめぐる 一裁判認知と戸籍訂正に関連して (4)	ジュリスト 124号	195702	【出席者】同上

第28回 認知届 日本人と外国人との間の認知	ジュリスト 125号	195703	【出席者】青木義人, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一, 我妻栄(座長)
第29回 認知に関する戸籍の記載	ジュリスト 126号	195703	【出席者】市川四郎, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 我妻栄(座長)
第30回 (完) 認知による戸籍の変動	ジュリスト 127号	195704	【出席者】同上
〈討論〉人工授精の法律問題	私法 16号	195610	日本私法学会第17回大会 民法部会シンポジウム (昭和31年5月2日) 【発言者】小池隆一(座長), 唄孝一, 田中実, 伊沢孝平, 石本雅男, 中川善之助, 津曲蔵之丞, 人見康子, 宮崎孝治郎, 山本進一, 大原長和, 佐々木宏, 広中俊雄 【再録】小池隆一・田中実・人見康子[編]『人工授精の諸問題—その実態と法的側面』(196002)
■1957年(昭和32年)			
新民法の成立—成立過程における連続性と非連続性	中川善之助・青山道夫・玉城肇・福島正夫・兼子一・川島武宜[編]『家族』(講座家族問題と家族法Ⅰ), 酒井書店	195702	【共同執筆】竹下史郎 【再録】『選集』Ⅰ第2章
氏をどう考えるかということ—わが現行法上の存在として	私法 17号	195704	日本私法学会第18回大会 第2日(昭和31年10月31日)民法部会における研究報告 【再録】『選集』Ⅰ第5章
戦後の民法改正過程における「氏」	日本法社会学会[編]『家族制度の研究(下)理論と実態』, 有斐閣 法社会学 9号	195704	【再録】『選集』Ⅰ第6章
戸籍セミナー・養子縁組(全10回)			【再録】『戸籍Ⅲ 養子縁組 戸籍セミナー(3)』(ジュリスト選書), 有斐閣(195902)
第31回 届出 届出の形	ジュリスト 133号	195707	【出席者】青木義人, 市川四郎, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一, 我妻栄(座長)

第32回	届出 養子の実質的要件と届出	ジュリスト 134号	195707	【出席者】 同上
第33回	届出 実子を養子とする縁組届	ジュリスト 135号	195708	【出席者】 同上
第34回	届出 配偶者を有する者の縁組届	ジュリスト 136号	195708	【出席者】 同上
第35回	届出 配偶者を有する者の縁組届（承前） 未成年者を養子とする縁組届	ジュリスト 137号	195709	【出席者】 同上
第36回	届出 未成年者を養子とする縁組届 （承前）	ジュリスト 138号	195709	【出席者】 青木義人，市川四郎，岩佐節郎，唄孝一，平賀健太，我妻栄（座長）
第37回	届出 未成年者を養子とする縁組届 （承前）	ジュリスト 139号	195710	【出席者】 同上
第38回	戸籍の記載 養子縁組による戸籍の変動	ジュリスト 140号	195710	【出席者】 同上
第39回	戸籍の記載 養子縁組による戸籍の変動（続き）	ジュリスト 141号	195711	【出席者】 同上
第40回	戸籍の記載 （完） 養子縁組による戸籍の変動（続き） 縁組に関する事項の記載	ジュリスト 142号	195711	【出席者】 同上

■1958年（昭和33年）

〈時の問題〉戸籍の改製とその周辺—10年を迎えた新戸籍法

（上）改製の事務と手続 改製の意義—変革の内容・態様	ジュリスト 147号	195802	【再録】『選集』Ⅰ第9章
（中）改製の意義—態様における特色・評価	ジュリスト 148号	195802	

「氏」をどう考えるか—わが現行法上の存在として（全3回）

第1回 単なる呼称ではないということ 取得変更の基準原理	戸籍 110号	195802	
第2回 異動に伴う法的効果	戸籍 111号	195803	
第3回 法律上の存在としての氏 （完） おぎない	戸籍 112号	195804	
ドイツ養子法における「氏」—わが法との若干の比較	人文学報 18号 （東京都立大学人文学会）	195803	【再録】『選集』Ⅰ第7章

「戸籍の改正〔改製の誤り〕」について	子どものしあわせ 昭和33年5月号 (日本子どもを守る会編集)	195805	
戸籍セミナー (番外)・戸籍の改製 (全3回)			【出席者】青木義人, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一, 我妻栄 (座長)
(上) 総論的問題	ジュリスト 154号	195805	
(中) 改製のしかた—具体的事例を通して	ジュリスト 155号	195806	
(下) 改製のしかた—具体的事例を通して 今後の課題	ジュリスト 156号	195806	
『判例体系 親族編 I, II, III』	我妻栄ほか[編] 第一法規出版	195808	【共著者】我妻栄, 唄孝一
〈学芸〉勤評の法律問題点	朝日新聞 昭和33年9月13日	195809	
〈時の問題〉勤務評定の実施権の所在—とくに 特別区教育委員会について	ジュリスト 164号	195810	
戸籍セミナー 続・離縁 (全7回)			【出席者】青木義人, 市川四郎, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 我妻栄 (座長)
第1回 概説 養子が夫婦である場合	ジュリスト 165号	195811	
第2回 養親が夫婦である場合 死亡養親との離縁	ジュリスト 166号	195811	
第3回 死亡養親との離縁 (続き)	ジュリスト 167号	195812	
第4回 離縁における代諾	ジュリスト 168号	195812	
第5回 離縁における代諾 (続き)	ジュリスト 170号	195901	
第6回 復籍すべき戸籍について	ジュリスト 171号	195902	
第7回 (完) 復籍に代る新戸籍編製について	ジュリスト 172号	195902	
『戸籍 I 出生 戸籍セミナー (I)』 (ジュリスト選書)	有斐閣	195811	【共著者】我妻栄 (著作者代表), 青木義人, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一 【初出】「戸籍セミナー 出生 (全17回)」 ジュリスト 97号～114号 (195601～195609)

『戸籍Ⅱ 認知 戸籍セミナー (2)』 (ジュリスト選書)	有斐閣	195811	【共著者】我妻栄 (著作者代表), 青木義人, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一 【初出】「戸籍セミナー 認知 (全13回)」ジュリスト 115号~127号 (195610~195704)
〈読書〉“すきま風”の解決へ	東京新聞 昭和33年12月15日	195812	磯野誠一・磯野富士子 〔著〕『家族制度—淳風美俗を中心として』(岩波新書, 1958年)の書評
■1959年 (昭和34年)			
『戸籍Ⅲ 養子縁組 戸籍セミナー (3)』 (ジュリスト選書)	有斐閣	195902	【共著者】我妻栄 (著作者代表), 青木義人, 市川四郎, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 村上朝一 【初出】「戸籍セミナー 養子縁組 (全10回)」ジュリスト 133号~142号 (195707~195711)
「婚姻予約有効判決」の再検討—大連判大正4年1月26日			【再録】 〔1〕『法学の方法』(長谷川正安〔編〕), 学陽書房 (197206) 〔2〕『選集』Ⅲ第4章
(1) はしがき, 概説/大審院にいたるまで	法律時報 31巻3号	195903	
(2) 大審院における問題点/むすび (完)	法律時報 31巻4号	195904	
続・「婚姻予約有効判決」の再検討			【共同執筆者】佐藤良雄 【再録】 〔1〕『法学の方法』(長谷川正安〔編〕), 学陽書房 (197206) 〔2〕『選集』Ⅲ第5章
(1) 序説/当時の当地の婚姻慣行 本件における男女関係の性質	法律時報 31巻10号	195909	
(2) 本件における男女関係の性質 (承前) (完) むすび—通説的見解への疑い/追記	法律時報 31巻11号	195910	
戸籍セミナー 続・婚姻 (全5回)			【出席者】 青木義人, 市川四郎, 岩佐節郎, 唄孝一, 平賀健太, 我妻栄 (座長)
第1回 本籍不明者または無籍者の婚姻 外国人の婚姻届 外国在住の日本人と外国人との婚姻届 外国在住の日本人と日本在住の日本人との婚姻届	ジュリスト 177号	195905	
第2回 外国人と婚姻した日本人の氏と戸籍	ジュリスト 178号	195905	
第3回 父母の婚姻により嫡出子の身分を取得 する子がある場合の取扱	ジュリスト 180号	195906	

第4回	記載前の婚姻の取下げ 相手方が誤記されている婚姻	ジュリスト 181号	195907	
第5回	旧法当時婚姻した夫婦について新戸籍 を編製するときの氏と筆頭者	ジュリスト 183号	195908	
	「通説」の法社会学的考察—問題の所在	法律時報 31巻8号 (第2特集・「通説」の法 社会学的考察)	195907	日本法社会学会春季大会 のシンポジウム(昭和34 年4月10日、福島正夫・ 唄孝一(司会))の報告 に若干の加筆訂正を行っ たもの
	〈家族法覚書〉離婚届と本人の意思	戸籍時報 16号	195907	
	〈座談会〉親族法の改正—「法制審議会民法部 会小委員会における仮決定・留保事項」に関連 して			【出席者】我妻栄(司 会), 中川善之助, 奥野 健一, 小澤文雄, 村上朝 一, 唄孝一
	(その1) 離婚／親子(嫡出親子・非嫡出親子 ・親子関係不存在確認)	法律時報 31巻10号 (特集・新しい家族, 新 しい民法)	195909	
	(その2・完) 親子(養子)／親権	法律時報 31巻11号	195910	
	〈家族法覚書〉「内縁」余論	戸籍時報 19号	195910	
	内縁解消の正当事由	中川善之助教授還暦記念 「家族法大系」刊行委員 会[編]『離婚』(家族法 大系Ⅲ), 有斐閣	195910	【再録】『選集』Ⅲ第8章
	〈家族法覚書〉氏と戸籍	戸籍時報 20号	195911	
■1960年(昭和35年)				
	〈討論〉日本私法学会におけるシンポジウム	小池隆一・田中實・人見 康子[編] 『人工授精の諸問題—そ の実態と法的側面』 (慶応義塾大学法学研究 会叢書 4)	196002	【初出】 私法 16号(195610) 旧表題「人工授精の法律 問題」
	戸籍セミナー 続・離婚			【出席者】青木義人, 市 川四郎, 岩佐節郎, 唄孝 一, 平賀健太, 我妻栄 (司会)
	第1回 離婚届	ジュリスト 197号	196003	
	第2回 離婚による復籍及び新戸籍編製 (完)	ジュリスト 198号	196003	
	ドイツにおける夫婦の氏	『東京都立大学創立10周 年記念論文集〔法経篇〕』	196003	【再録】『選集』Ⅰ第8章
	認知—最判昭和32.6.21(民集11.6.1125)	ジュリスト 200号記念特 集『判例百選』	196004	
	婚姻予約解消の正当事由(判例総合研究)	民商法雑誌 42巻3号	196006	【再録】『選集』Ⅲ第9章
	〈家族法覚書〉「子の氏変更」について	戸籍時報 28号	196007	

■1961年（昭和36年）

孝行者の親不孝—自我と母と家と世間	思想の科学 26号 (特集・家の再発見)	196102	【再録】『選集』Ⅰ第4章 【再録】『時は過ぎる』 (198703)
マックス・ラインスタイン「離婚法と婚姻の安定性」	日本法社会学会[編] 『家族と法—家庭裁判所の理論と資料など』, 有斐閣, 法社会学 12号	196108	【共訳者】山木寛 ラインスタイン教授セミナーの準備の一環として翻訳されたもので司法研修所ほかの許可をえて掲載
〈課題〉家庭裁判所と法学	上掲書所収	196108	【再録】『選集』Ⅳ附録1
編集後記	上掲書所収	196108	
いわゆる婚姻予約有効判決の下級審判決	法律時報資料版 12号	196109	【再録】『選集』Ⅲ附録1

■1962年（昭和37年）

マックス・ラインスタイン「離婚法と婚姻の安定性」 (原題: Max Rheinstein, The Law of Divorce and the Problem of Marriage Stability, 9 VAND. L. REV. 633 (1955-1956))	家庭裁判月報 14巻1号	196201	【共訳者】山木寛 後出『比較離婚法の研究—ラインスタイン教授セミナー記録』(196205)に収録されることになる訳出論文を同『記録』の公刊に先だって掲載したもの
内縁ないし婚姻予約	ジュリスト別冊法学教室 [第1期] 3号	196203	【再録】『選集』Ⅲ第1章
認知の訴と不貞の抗弁—被告以外の男との情交の有無をめぐる	ケース研究 70号	196204	【再録】『選集』Ⅲ第10章
母は亡ぶ—扶養問題を解決するのは法ではない	群像 昭和37年5月号	196205	【再録】『時は過ぎる』 (198703)

『比較離婚法の研究 ラインスタイン教授セミナー記録』	研修叢書 51号 (司法研修所)	196205	昭和36年4月19日～6月28日までの間に全6回開催されたセミナーの記録(セミナーのために事前に指定された資料7編の邦訳や日本側報告者が用意した資料・統計等も含まれる) 【参加者】 マックス・ラインスタイン, 市川四郎, 沼辺愛一, 栗原平八郎, 外山四郎, 鮫島竜男, 大野輝房, 千種達夫, 高井常太郎, 岡成人, 加藤令造, 河野力, 田中加藤男, 高野耕一, 湯沢雍彦, 名和由紀子, 平賀健太, 阿川清道, 村岡二郎, 鈴木秀雄, 伊藤利夫, 川島武宜, 加藤一郎, 有泉亨, 星野英一, 渡辺洋三, 田中英夫, 中川善之助, 唄孝一, 土井輝生, 人見康子, 橘喬(司会), 田辺公二, 山木寛, 河合伸一
離婚法と婚姻の安定性 (ラインスタイン)	上掲『記録』中の資料3	196205	【共訳者】 山木寛 前出法社会学12号 (196108) 掲載の訳出論文と同じ
協議離婚についての若干の統計	上掲『記録』中の附録1	196205	
事実上の結婚破綻と法律上の離婚手続との関係	上掲『記録』中の附録5	196205	
親族・相続	我妻栄[編] 『民法基本判例集』(法学テキスト 4), 一粒社	196207	【共同執筆者】 石川稔
〈最新判例批評〉非嫡出子懐胎当時における他男との情交の有無と認知請求 —最判昭36. 9. 26 (判例時報303号28頁)	判例評論 49号 (判例時報 303号)	196208	【再録】『選集』Ⅲ第12章
■1963年 (昭和38年)			
家事審判法第23条研究序説—素朴なしかし抑えがたい一つの疑問の解明を立法過程にたずねて	民事研修 70号	196302	【再録】『選集』Ⅰ第10章
〈家庭〉“親への仕送り”と長男／「ひととき」の投書をめぐって (全3回)			
(上) 扶養義務はどこまで?／“割りきれぬ”ところに悩みが	朝日新聞 昭和38年3月22日	196303	

(中) 妻や子の扶養が優先／額は兄弟で相談して	朝日新聞 昭和38年3月23日	196303	
(下) 法律論では解決せぬ／強い“社会保障”を望む声	朝日新聞 昭和38年3月24日	196303	
『転換期における家事資料の研究—昭和23年・24年』(家事資料研究会報告書第1輯)	家事資料研究会[編集刊行], 発行責任者 我妻栄, 中央事務局長 唄孝一, タイプ刷非売品	196304	【復刻】湯沢雍彦[監]『「家族・婚姻」研究文献集 戦後篇』(第22巻) クレス出版 (1991年2月)
《座談会》嫁姑紛争の心理と法律と社会関係—その相互関係と処理方法の再検討			産経新聞社後援, (財)寿命学研究会主催のシンポジウム (昭和38年4月16日), 湯沢雍彦[編]
(1) 嫁姑論争をどう捉え, どう対処したらよいか	ケース研究 78号	196308	【討論】川島武宣, 唄孝一, 宮城音弥, 日上泰輔, 那須宗一, 永井道雄, 渡辺定 (司会)
(2) 事件となる嫁姑紛争の特殊性と一般嫁姑関係の問題点	ケース研究 79号	196310	
闘う者のモラルと論理の未確立	東京都立大学新聞 1963年9月10日	196309	
夫婦の財産と内助の功 (身のまわりの法律)	婦人之友 昭和38年11月号	196311	
■1964年 (昭和39年)			
救急業務の法制的問題—消防法の一部改正による新発足を前にして	法律時報 36巻2号	196402	【再録】『歩み』第3章第2節 I
《座談会》「相続問題」 人工授精による子の親子関係不存在と相続 相続財産の細分化 遺言制度の活用	自由と正義 15巻2号 (特集・相続問題)	196402	【出席者】加藤令造, 角田幸吉, 勝本正晃, 岸永博, 坂倉啓夫, 竹内誠 (司会), 立石芳枝, 唄孝一, 山主政幸
認知訴訟における判例法の動向	日本法医学雑誌 18巻3号	196405	
山主さん	日本法学 30巻3号 (山主政幸教授追悼号)	196409	
《座談会》家庭裁判所15年の歩みと当面の課題—家庭事件を中心として	ジュリスト 309号	196411	【出席者】我妻栄 (司会), 磯野誠一, 河野力, 内藤頼博, 唄孝一, 細江秀雄
■1965年 (昭和40年)			
《座談会》病院管理と主治医権	病院管理 2巻1号	196501	【出席者】守屋博, 唄孝一ほか

治療行為における患者の承諾と医師の説明—西ドイツにおける判例・学説	契約法大系刊行委員会 [編]『契約法大系Ⅶ 補巻』(松坂佐一・西村信雄・舟橋諄一・柚木馨・石本雅男先生還暦記念)有斐閣	196502	【再録】『歩み』第1章
認知—最判昭和32.6.21 (民集11.6.1125)	別冊ジュリスト 2号『判例百選 (第2版)』	196503	【再録】『選集』Ⅲ第1章
判例の比較法的研究—問題点	比較法研究 26号	196503	比較法学会第27回総会(共通研究テーマ「判例の比較法的研究」, 1964年5月31日・6月1日)に向けて山田晟総括報告者の求めにより, 項目表を作成して問題点を指摘したもの
〈シンポジウム〉「判例」	日本法社会学会[編]『判例の法社会学的研究』, 有斐閣, 法社会学17号	196504	日本法社会学会第31回学術大会 シンポジウム(1964年4月12日)の記録 【発言者】唄孝一・川島武宜(司会), 平野龍一, 沼田稲次郎, 戒能通孝, 田村精一, 兼子仁, 山本進一, 花田政道, 長谷川正安, 潮見俊隆, 有泉亨, 加藤一郎, 西原道雄
家庭生活の法律	竈山京[編]『家庭管理学改訂10版』, 光生館	196505	【共著者】竈山京, 清水義弘, 戸野村操, 松元文子, 浜口隆一, 関敬吾, 唄孝一 唄執筆部分は同じく竈山京編著の『新家庭管理学』(昭和44年12月初版), 『新版 新家庭管理学』(昭和51年2月初版), 『三訂 新家庭管理学』(昭和57年4月初版)においても, 多少字句の修正があるだけで, 基本的な変更等は加えられていない
臨床医に必要な法律知識			
(1) 医師の過失	臨床外科 20巻5号	196505	
(2) 医師の責任と病院の責任	臨床外科 20巻6号	196506	
家族制度	大阪市立大学経済研究所[編]『経済学辞典』, 第1版(1965年9月), 第2版(1976年6月), 第3版(1992年3月), 岩波書店	196509	

輸血による梅毒感染についての医師の過失責任 —職業的給血者に対する医師の間診義務の有無・程度 —最判昭和36.2.16（民集15.2.244）	法学協会雑誌 81巻5号	196510	唄評釈は80-95頁，星野英一〔附記〕95-102頁がつづく 【再録】『歩み』第2章第2節Ⅲ
婚姻予約有効判決前史における・或る「法的構成」の生成とその機能—判例研究における一つの企図とその失敗	黒木三郎（刊行発起人代表）〔編〕 『家族の法社会学』（青山道夫教授還暦記念論文集），法律文化社	196511	【再録】『選集』Ⅲ第6章
家庭裁判所の現実—家庭事件	三ヶ月章〔編〕 『現代の裁判』（岩波講座 現代法 5），岩波書店	196512	【共同執筆者】湯沢雍彦 【再録】『選集』Ⅳ第4章
■1966年（昭和41年）			
共同相続と登記（民法ノートⅠ）	法学セミナー 121号	196604	【共同執筆者】鈴木禄弥
『判例コンメンタールⅧ 相続法』	コンメンタール刊行会発行，日本評論社発売	196604	【共編著者】我妻栄
〈座談会〉家族法上の妻の地位—夫婦の財産とその妻への帰属分	ジュリスト 344号	196604	【出席者】鍛冶千鶴子，塩崎潤，高野耕一，立石芳枝，田辺繁子，中川善之助（司会），唄孝一
救急業務の整備を／自治体間の協力が必要	毎日新聞 昭和41年5月20日	196605	毎日新聞全国調査（5月9日）「交通事故を追跡する」をめぐる「私の分析」
救急医療と法体制	東京都医師会雑誌 19巻3号	196607	【再録】『歩み』第3章第2節Ⅱ
包括遺贈と登記（民法ノートⅣ）	法学セミナー 124号	196607	【共同執筆者】鈴木禄弥
〈ジュリストの目〉にせ婚姻届事件 救急病院	ジュリスト 354号	196609	【出席者】我妻栄（司会），宮沢俊義，鈴木竹雄，唄孝一
医療における過誤訴訟の位置	科学 36巻10号 （特集・安全問題の基本的立場—災害における加害者と被害者）	196610	【再録】『歩み』第2章第1節Ⅰ
遺産分割と登記（民法ノートⅦ）	法学セミナー 127号	196610	【共同執筆者】鈴木禄弥
輸血過誤の研究序説—不適合輸血を中心として			
(1) 本稿の目的と対象／若干の前提的叙述 具体的な事例—日本とアメリカの諸判決	社会科学研究 18巻2号	196611	【再録】『歩み』第2章第2節Ⅱ
(2) 若干のまとめ／関連する事例	社会科学研究 18巻5号 （東京大学社会科学研究所）	196703	

■1967年（昭和42年）

共同相続財産の性質（民法ノートX）	法学セミナー 130号	196701	【共同執筆者】鈴木祿弥
〈講演〉輸血過誤の法律問題	日本輸血学会雑誌 14巻1・2号 （第14回学会特集号・第2部）	196702	第14回日本輸血学会総会 血液銀行運営部会（昭和41年4月1日） 【再録】『歩み』第2章第2節I
婚姻予約の成否—いわゆる誠心誠意判決— 一大判昭和6.2.20（法律新聞3240号4頁）	別冊ジュリスト 12号 『家族法判例百選』	196702	
医療における過失認定の論理—民法上の損害賠償の問題として	大学病院資料 5号 （文部省大学学術局大学病院課）	196703	【再録】『歩み』第2章第1節II
結婚届のこと	形外 18巻2号 （新生形外会誌）	196705	
戦後の民事判例における医師の過失責任			
（上）医業における注意義務の高度性 過失認定の論理	法律のひろば 20巻6号	196706	【再録】『歩み』第2章第1節III
（下）医療行為における注意義務の諸特質	法律のひろば 20巻7号	196707	
Comment, <i>The Application of Res Ipsa Loquitur in Medical Malpractice Cases</i> , 60 Nw. U. L. Rev. 852-875 (1965)	アメリカ法 1967-1	196707	
<i>In re Estate of Bernice Brooks</i> , 32 Ill. 2d 361, 205 N. E. 2d 435 (1965) —本人が宗教上の理由で反対している場合に裁判所が任命した管理人の同意に基づいて輸血をすることは第1修正の保障する信教の自由に反しないか	アメリカ法 1967-1	196707	【再録】『歩み』第2章第2節IV3〔附第3例〕
<i>Oleksiw v. Weidener</i> , 2 Ohio St. 2d 147, 207 N. E. 2d 375 (1965) —Malpractice訴訟において交互訊問に呼び出された被告（医師）は、専門家証言を必要とする質問に答えなければならないか	アメリカ法 1967-1	196707	
〈講演〉衛生検査技師の法的責任	日本衛生検査技師会雑誌 16巻8号	196708	
医療に従事する人びと	形外 18巻3号 （新生形外会誌）	196709	
一般教育への提言	東京都立大学新聞 1967年9月25日	196709	
『体系民法判例 VIII 相続』	有斐閣	196710	【共編著者】我妻栄 【共同執筆者】石川稔
親を養う義務	形外 18巻4号 （新生形外会誌）	196711	

■1968年（昭和43年）

心臓移植への法的提言	朝日ジャーナル 10巻3号 （特集・臓器移植は人間を救うか）	196801	【再録】『脳死を学ぶ』第1章
過去の扶養料の求償においても、その分担額は、家庭裁判所が審判で決すべきであり、通常裁判所が判決手続で判定すべきではない —最判昭和42. 2. 17（民集21. 1. 133）	法学協会雑誌 85巻2号	196802	【共同執筆者】林順碧
第1回世界医事法会議に出席して	法律時報 40巻2号 （特集・医学と法学）	196802	第35回日本刑法学会（1967年10月14日）における報告に多少の添削をほどこしたもの 【再録】『歩み』補論Ⅰ
医事法制学と山崎先生	江尻進[編] 『思い出に綴られる山崎佐の生涯』，電通印刷所	196802	
医療制度のしくみとその問題点	有泉亨[監]，氏原正治郎・小山路男・築誠[編] 『社会保険事典』 社会保険新報社	196803	【再録】『歩み』第3章第1節 【転載】ジュリスト 406号（196809）
戦後の日本における医師の過失責任	『日米合同法医学会議日本側発言者演説要旨』	196804	「医療過誤に関する法医学的問題点」をめぐる1報告（昭和43年4月3日）
〈ジュリストの目〉心臓移植をめぐる問題	ジュリスト 397号	196805	【出席者】榊原仟，唄孝一，我妻栄（司会），宮沢俊義，鈴木竹雄
医療過誤における医師の過失責任	Medicina 5巻7号 （医学書院）	196807	
戦後日本における医師の過失責任	産婦人科の世界 20巻7号	196807	
〈座談会〉心臓移植は許されるか—臓器移植の現状と問題点	法律のひろば 21巻8号	196808	【出席者】安田道夫（司会），稲生綱政，植松正，木本誠二，唄孝一，水野肇
〈文化〉心臓移植を考える 出発点は事実の認識／生から死への移行／法律家の立場から	北国新聞 昭和43年8月11日	196808	和田心臓移植の実施（昭和43年8月8日）直後から約1週間各地の地方紙に「法律家が見る心臓移植の問題」と題する談話が掲載されたが，大同小異の記事であるので左記のもの以外は割愛

医療制度のしくみとその問題点	ジュリスト 406号 (特集・医療制度の問題 状況)	196809	【初出】有泉亨[監], 氏 原正治郎・小山路男・築 誠[編]『社会保険事典』, 社会保険新報社(196803)
「特別縁故者への財産分与」制度の立法経過に ついての断章	私法 30号	196810	日本私法学会第31回大会 第1部会テーマ「特別縁 故者に対する残存相続財 産の分与制度をめぐる諸 問題」の討論の際の唄発 言を報告者らの求めによ り文書化して提出したも の(昭和42年10月15日)
〈文化〉死の認定—「人々」と「医師」と「法 律家」と			
(上) 科学的解析に結びつく「人々」の考え こそ基準	朝日新聞 昭和43年10月7日夕刊	196810	【再録】『脳死を学ぶ』 第2章
(下) 諸知識に通じて判断／専門家の独善に 警戒を	朝日新聞 昭和43年10月8日夕刊	196810	
臓器移植の法的考察—臓器をめぐる個人と家族 と社会と	法学セミナー 152号	196811	
〈座談会〉家族法における実体規定と手続規定 との相関性(裁判の新思潮・4)	判例タイムズ 226号	196812	【出席者】野田愛子(司 会), 沼辺愛一, 唄孝一, 岡垣学, 新堂幸司
■1969年(昭和44年)			
〈座談会〉病院・医師・救急隊に望むもの—救 急専門職・国家試験制度の実現	近代消防 7巻3号	196902	【出席者】福田保, 守屋 博, 洪沢喜守雄, 唄孝 一, 清水英明, 井口静 夫, 加藤清, 岡村正明 (司会)
医療と法	からだの科学 26号	196903	【再録】『歩み』補論Ⅱ
治療行為における患者の承諾と医師の説明義務 の範囲—第2電気ショック事件 —連邦通常裁判所1958年12月9日判決(BGHZ Bd, 29, S 46)	別冊ジュリスト 23号 『ドイツ判例百選』	196905	
〈座談会〉臨床家のための生死の判定	内科 23巻5号	196905	【出席者】上田英雄(司 会), 榊原亘, 笹本浩, 冲中重雄, 唄孝一
〈講演〉救急医療と法律問題	『大阪府救急医療研修会 講演集 昭和43年度』	196906	
昔嘶・『家』制度研究会」序説	「家」制度研究会報 8号	196906	
〈座談会〉わが国の救急医療体制	事故と災害 3巻2号 (社会保険新報社)	196907	【出席者】唄孝一(司 会), 松尾正雄, 渡辺茂 夫, 黒田幸男, 玉井義臣

医療問題に対する法の機能と限界	社会保険旬報 938号 (社会保険研究所)	196907	東京メディカル・センターの第63回医療問題社会懇談会(昭和44年6月21日)における講演要約記事(文責 編集部)
戦後日本の民事判決における医師の過失責任	大阪府医師会[編] 『医事紛争に関する講演会記録』	196910	
医療訴訟について	週刊薬事新報 529号	196912	第8回国公私立大学附属病院薬剤部職員研修会
Physician's Negligence Liability in Medical Malpractice—Civil Cases in Post-War Japan	JUS MEDICUM 2, ACTA First World Meeting on Medical Law	196999	第1回世界医事法会議 於・ゲント(1967年8月21～24日)
■1970年(昭和45年)			
(講演) 医療過誤と不法行為責任	日本弁護士連合会[編] 『昭和44年度 特別研修叢書』	197001	
『医事法学への歩み』	岩波書店	197003	【著作集】
親族・相続	我妻栄[編] 『改訂民法基本判例集』(法学テキスト 4), 一粒社	197003	【共同執筆者】石川稔
死の「定義」と死の「認定」—医師と法律家と人々の役割に視点をおいて	順天堂医学雑誌 16巻1号	197004	順天堂医学会シンポジウム(懸田克躬, 植木幸明, 松倉豊治, 唄孝一)の記録 【再録】『脳死を学ぶ』第3章
日本医事法学会とは……	週刊医学通信 978号 (医学通信社)	197004	
Contemporary Problems of Medical Law in Japan	Annals of the Institute of Social Science, No. 11, 1970, University of Tokyo	197006	
『判例コンメンタールⅦ 親族法』	コンメンタール刊行会発行, 日本評論社発売	197008	【共編著者】我妻栄 【共同執筆者】佐藤良雄, 稲本洋之助, 石川稔, 品川孝次, 鈴木ハツヨ, 阿部徹, 唄孝一
■1971年(昭和46年)			
医療と医事法学	大阪府医師会[編] 『医療と法律』 法律文化社	197101	

医療紛争	文部省研究報告集録 (社会科学編)	197103	
都市における救急医療業務序説—日本における 救急医療概観	東京都立大学都市研究委 員会[編]『都市研究報 告』18号	197103	
川島先生の還暦祝賀会に留学先から寄せられた 唄孝一教授の手紙	法学セミナー 184号	197105	【再録】「川島武宜先生 を偲ぶ」編集委員会[編] 『川島武宜先生を偲ぶ』 (199406)
志摩漁村における親族組織と結婚慣行—安乗の 1944年・1970年	潮見俊隆・渡辺洋三[編] 川島武宜教授還暦記念論 文集『法社会学の現代的 課題』, 岩波書店	197106	【共同執筆者】湯沢雍彦 【再録】『選集』IV第1章
予防接種にもとづく障害の補償—西ドイツの場 合 (世界の医事法・1)	法律時報 43巻7号	197106	
予防接種にもとづく障害の補償 (続) —西ドイ ツの改正法 (世界の医事法・4)	法律時報 44巻1号	197201	【共同執筆者】宇都木伸
生死の認定と法律学	未来研究 3巻7号 (宣協社)	197107	
〈講演〉法学からみた生死の問題	病院管理 8巻3号	197107	第9回日本病院管理学会 総会 特別講演(昭和46 年10月2日) 【再録】『脳死を学ぶ』 第6章
「死亡」と「死体」についての覚え書			【再録】『脳死を学ぶ』 第4章
(1) 死亡	ジュリスト 483号	197107	
(2) 死体	ジュリスト 485号	197108	
イギリスにおける臓器移植の法的状況 (全13回)			【再録】『臓器移植と脳 死 (イギリス)』第1・2・ 3章
1—現行法の概観1 (世界の医事法・2)	法律時報 43巻10号	197108	
2—現行法の概観2・完 (世界の医事法・3)	法律時報 43巻11号	197109	
3—法改革への胎動1 (世界の医事法・5)	法律時報 44巻2号	197202	
4—法改革への胎動2 (世界の医事法・6)	法律時報 44巻3号	197203	
5—法改革への胎動3 (世界の医事法・7)	法律時報 44巻4号	197204	
6—法改革への胎動4 (世界の医事法・8)	法律時報 44巻9号	197207	
7—法改革への胎動5 (世界の医事法・9)	法律時報 44巻11号	197209	
8—法改革への胎動6 (世界の医事法・10)	法律時報 44巻13号	197211	
9—法改革への胎動7 (世界の医事法・11)	法律時報 45巻2号	197302	

10—法改革への胎動8（世界の医事法・12）	法律時報 45巻4号	197303
11—法改革への胎動9（世界の医事法・13）	法律時報 45巻5号	197304
12—法改革への胎動10（世界の医事法・14）	法律時報 45巻6号	197305
13—法改革への胎動11（世界の医事法・15）	法律時報 45巻7号	197306

MEと法と社会	医用電子と生体工学 9巻6号	197112
---------	-------------------	--------

■1972年（昭和47年）

医療における法と倫理	Medicina 9巻1号 （医学書院）	197201	【再録】『死ひとつ』 （198809）
特別発言	医科器械学雑誌 42巻1号	197201	第46回日本医科器械学会 大会 シンポジウム「救 急医療」（昭和46年5月29 日） 【発言者】綿貫喆，岩本 正信，岡村正明，大内正 夫，鈴木正弥，津端求， 三浦勇，杉本侃，榊原文 作，玉井義臣，唄孝一
〈座談会〉法と歴史と社会と—福島正夫教授の学問と業績（全5回）			【出席者】福島正夫，清 水誠，利谷信義，唄孝 一，藤田勇
第1回 生いたちから学生生活	法学セミナー 192号	197201	
第2回 東亜研究所時代	法学セミナー 194号	197202	
第3回 法務府時代から東大東洋文化研究所へ	法学セミナー 195号	197203	
第4回 「家」制度研究会と白川村調査のこと など	法学セミナー 196号	197204	
第5回 社会主義法研究会／福島「学」の特色 （完）	法学セミナー 197号	197205	
生命の尊厳について	『生命科学へのアプロー チ』（科研費・総合 B （昭和46年度）「生物科 学の総合的推進に関する 調査研究」班資料）	197203	1971年7月9日の「生命科 学」に関するシンポジウ ムにおけるコメント （於・日本学術会議）
〈討論〉現代私法の思想（2）—家族と家族法 をめぐって	渡辺洋三・利谷信義[編] 『現代日本の法思想』 （福島正夫先生還暦記 念），日本評論社	197204	【発言者】利谷信義（司 会），有地亨，磯野誠一， 稲子宣子，西原道雄（紙 上参加），唄孝一（紙上 参加），依田精一，渡辺 洋三

〈巻頭言〉 ^{つれづれならざるままに} 不徒然草	国家と法 11号 (東京都立大学法学ゼミ 連機関誌)	197204	【転載】法学セミナー 239号 (197505)
臓器移植における「人」の法と「家族」の法	「家」制度研究会報 15 号	197205	研究会 (1971年9月) に おける報告と討論の要旨 (文責 川田昇)
法学からみた生死の問題と看護婦	看護学雑誌 36巻6号 (特集・患者の死と看護)	197206	【初出】病院管理 8巻3 号 (197107) 旧表題「法学からみた生 死の問題」
「婚姻予約有効判決」の再検討	長谷川正安[編] 『法学の方法』(法学文 献選集 1), 学陽書房	197206	【共同執筆者】佐藤良雄 【初出】法律時報 31巻 3, 4, 10, 11号 (195903, 195904, 195909, 195910)
死の認定と法律学	冲中重雄[編] 『第18回日本医学会総会 会誌』	197207	シンポジウム 「生死の判定をめぐつ て」 【シンポジスト】山岡憲 二(司会), 藤森聞一, 陣内傳之助, 稲本晃, 松 倉豊治, 唄孝一 【転載】現代法ジャーナ ル 1973年1月号 【再録】『脳死を学ぶ』 第5章
〈特別講演〉ME への医事法学的接近序説—M E と社会と法	医用電子と生体工学 10巻4号	197208	
臓器移植における提供者側の意志—英米におけ る動向	私法 34号	197210	日本私法学会第35回大会 (昭和46年10月9日, 10 日) 第2日第2部会におけ る研究報告
医事法学会が「望みなき(?) 患者の治療」を 論ずることの意味と方法	法律時報 44巻13号	197211	日本医事法学会第3回総 会 シンポジウム「望み なき(?) 患者の治療— 医療とはなにか」(1972 年1月30日) の記録 【再録】日本医事法学会 [編]医事法学叢書第5巻 『医療と生命』, 日本評論 社 (198610)

《討論》重症奇形児をめぐって “痛み”をめぐって 治療の中止をめぐって おわりに	法律時報 44巻13号	197211	上掲シンポジウム 【発言者】唄孝一（座長）、豊田信三、宮野彬、浅井賢、沖永莊一、鶴賀信篤、松田道雄、西三郎、木村忠司、磯崎辰五郎、有泉亨、寺畑喜朔、小片重男、林良平、山内健嗣、上野正吉
《交遊抄》準禁会の友垣	日本経済新聞 昭和47年11月30日	197211	
『公衆衛生活動と総合的健康診断システム』 (分担研究及び協力研究報告論文集（2分冊）)	昭和46年度厚生科学研究	197299	【研究分担・協力者】西三郎、唄孝一、宇都木伸、下山瑛二、小川政亮、地主重美
■1973年（昭和48年）			
「健康権」についての一試論	公衆衛生 37巻1号 (特集・健康権)	197301	【再録】社会保障研究所[編]『医療』（リーディングス日本の社会保障2）、有斐閣（199209）
死の認定と法律学	現代法ジャーナル 1973 年1月号（特集・安楽死と現代）	197301	【初出】沖中重雄[編]『第18回日本医学会総会会誌』（197207）
《講演》家族と医療	戸籍 322号（臨時増刊）	197303	第25回全国連合戸籍事務協議会総会（昭和47年10月20日）における特別講演
私の法学入門	法学セミナー 209号	197304	〈法学部長アンケート〉への回答
死一〔死をめぐる法的問題〕	『百科年鑑 1973』, 平凡社	197304	
腎移植普及の条件	とらんすぷらんと 1号 (腎臓移植普及会)	197304	
臓器移植の法的側面	生活教育 17巻4号 (特集・法の世界とその 実際—保健活動のため) (生活教育の会刊)	197304	
医師がペンをもつとき	毎日新聞 昭和48年5月21日	197305	菊田昇医師の「赤ちゃんあっせん」行為をめぐり、新聞社が衆参両院の議員に発した質問とその回答を紹介する紙面のなかの論稿

〈解説〉 法律的立場からみた救急業務	救急活動 1巻4号 (特集・東京都救急条例 関係), 保健栄養新報社	197306	
〈討論〉「健康権」(?)をめぐって—医療の中心にあるものは何か	ジュリスト 538号 (特集・「健康権」をめぐって—医療の中心にあるものは何か)	197307	日本医事法学会第4回総会 シンポジウム (1973年2月4日) 【発言者】曾田長宗 (司会), 末広敏昭, 姉崎正平, 下山瑛二, 高木武, 西三郎, 小川政亮, 田原睦夫, 有泉亨, 渡辺茂夫, 唄孝一, 植松正, 山内健嗣 【再録】日本医事法学会 [編]医事法学叢書第4巻『医療の制度と保障』, 日本評論社 (198609)
〈特別座談会〉代用臓器と法と社会	人工臓器 2巻4号	197308	(昭和48年7月2日) 【出席者】葛西森夫 (司会), 岸田純之助, 木本誠二, 唄孝一, 堀原一
〈対談〉医療と法	公衆衛生 37巻9号	197309	西三郎
医療における法と倫理	現代のエスプリ 74号 (姉崎正平[編集・解説] 『医療と社会』)	197309	【初出】Medicina 9巻1号 (197201)
〈座談会〉医療過誤紛争をめぐる諸問題 (全9回)			【再録】加藤一郎・鈴木潔[監]『医療過誤紛争をめぐる諸問題 付・医療関係民事裁判例他資料』, 法曹会 (197610)
第1回 医療過誤紛争の概況と最近の傾向	法曹時報 25巻10号	197310	【出席者】鈴木潔 (司会), 加藤一郎, 松倉豊治, 野村好弘, 手塚康夫, 松野嘉貞, 穴田秀男, 高田利広, 南新吾, 高橋清一, 江田五月, 遠藤賢治, 伊藤廣保, 高篠包, 石垣君雄, 岩垂正起
第2回 医療過誤紛争の概況と最近の傾向 (承前) 訴訟救助／法律扶助／医療紛争と調停	法曹時報 26巻1号	197401	【出席者】同上 唄孝一 (本回以降出席)
第3回 医師と患者との法律関係 債務不履行と不法行為／診療契約に関する諸問題／事務管理	法曹時報 26巻2号	197402	【出席者】同上
第4回 責任論における問題点 因果関係	法曹時報 26巻3号	197403	【出席者】同上

第5回	責任論における問題点（承前） 因果関係（承前）／医師の注意義務 一般	法曹時報 26巻4号	197404	【出席者】 同上
第6回	責任論における問題点（承前） 医師の注意義務一般（承前） 過失の類型／医師の裁量／説明義務	法曹時報 26巻5号	197405	【出席者】 同上
第7回	責任論における問題点（承前） 説明と承諾／免責約款／自由診療と 保険診療	法曹時報 26巻8号	197408	【出席者】 同上 竹下守夫（今回以降出 席）
第8回	審理上の諸問題 一般的問題／遺体解剖／心証形成の 過程と程度／裁判官と専門知識	法曹時報 26巻9号	197409	【出席者】 同上
第9回	審理上の諸問題（承前） （注） 東二病院脳血管撮影事件をめぐって 債務不履行構成の裁判例の検討 医療行為における因果関係と過失の 関係／鑑定	法曹時報 26巻10号	197410	【出席者】 同上
〈講演〉医療過誤に対する最近の考え方（全5回）				昭和48年10月18日「医療 過誤における法と倫理」 と題してなされた講演
(1)	医療事故と医療過誤の相違点	MEDIC 102号（メディカ ル・ジャーナル社）	197311	
(2)	民事の場合の過失	MEDIC 106号	197401	
(3)	法律上の医療基準	MEDIC 107号	197402	
(4)	訴訟における医学と法律	MEDIC 109号	197403	
(5)	事前の説明と事後の説明 医療器械による事故と医療過誤	MEDIC 111号	197404	
我妻栄先生	図書 292号		197312	【再録】 [1]『追想の我妻栄一陰 しく遠い道』、一粒社 (197410) [2]『我妻栄先生の人と 足跡—年齢別業績経歴一 覧表』の葉、信山社 (199310)
〈特別講演〉臓器移植における《法と医療》		日本移植学会雑誌 8巻2号	197399	第8回日本移植学会総会 （昭和47年10月31日，11 月1日）
法学の立場から—臨床試験の法的問題		ファルマシア 9巻3号 （（社）日本薬学会）	197399	シンポジウム「医薬開発 の問題点—第一相試験を めぐって」における講演 （昭和47年9月30日）要旨

System of Emergency Medical Services in Japan	JUS MEDICUM 3, ACTA Second World Meeting on Medical Law	197399	第2回世界医事法会議 於・ワシントンD.C. (1970年8月18日～21日)
■1974年（昭和49年）			
〈ばっくぼーん〉医療をいかに裁くか—法律の立場と医療の進歩	ナースステーション 4巻1号	197401	【再録】『死ひとつ』 (198809)
〈座談会〉家庭裁判所制度の課題	ケース研究 142号	197404	【出席者】唄孝一, 松尾浩也, 山木戸克己, 沼辺愛一, 桑原正憲, 下門祥一, 堀江一夫, 田中恒朗, 金末和雄, 野田愛子(司会), 山之内一夫
ライフサイエンスと法	日本公衆衛生雑誌 21巻5号	197405	
我妻先生と法学概論	我妻栄[著]『法学概論』 (法律学全集 第55回配本) のしおり, 有斐閣	197406	【再録】『我妻栄先生の人と足跡—年齢別業績経歴一覧表』の葉, 信山社 (199310)
〈座談会〉人間・我妻栄を語る	ジュリスト 563号 (臨時増刊) (特集・我妻法学の足跡)	197406	【出席者】中川善之助(司会), 鈴木竹雄, 田中二郎, 有泉亨, 四宮和夫, 遠藤浩, 唄孝一, 星野英一
〈座談会〉我妻栄先生の学問と業績	ジュリスト 563号 (臨時増刊) (特集・我妻法学の足跡)	197406	【出席者】中川善之助, 鈴木竹雄(司会), 田中二郎, 川島武宜, 唄孝一, 星野英一
我妻栄先生の略歴・主要著書	ジュリスト 563号 (臨時増刊) (特集・我妻法学の足跡)	197406	【編集】
〈討論〉沖中報告「医師の心, 患者さんの心」をめぐって	ジュリスト 568号 (特集・医師と患者の関係をめぐって)	197408	日本医事法学会第5回総会 シンポジウム「医師と患者の関係」(1974年2月3日)の記録 【発言者】唄孝一(司会), 沖中重雄, 鈴木俊光, 蓮沼正明, 渡辺治生, 浅井賢, 大嶋仁, 末広敏昭 【再録】日本医事法学会[編]医事法学叢書第1巻『医師・患者関係』, 日本評論社 (198607)

『生命科学ノート』 (UP選書)	東京大学出版会	197409	【共著者】松尾孝嶺，近藤宗平，北沢右三，鈴木尚，朝比奈一男，三好和夫，唄孝一，山崎正一
科学と法と生命と	上掲書所収	197409	
『追想の我妻栄 険しく遠い道』	一粒社	197410	【編集世話人】有泉亨(代表)，四宮和夫，遠藤浩，唄孝一，我妻洋
一所けんめいの生涯	上掲書所収	197410	【初出】図書 292号(197312) 旧表題「我妻栄先生」 【転載】『我妻栄先生の人と足跡—年齢別業績経歴一覧表』の榮，信山社(199310)
有泉亨[監]『医療事故・製造物責任』 (現代損害賠償法講座 4)	日本評論社	197411	【共編著者】有泉亨
現代医療における事故と過誤訴訟—第4巻編集の「はしがき」をかねて	上掲書所収	197411	
ライフ・サイエンスと法	日本医師会[編] 『ライフ・サイエンスの 進歩 第1集』(日本医師 会特別医学分科会リポ ート 1974)，春秋社	197411	日医特別医学分科会第2部会(医療経済・法律学会)のシンポジウム(昭和48年12月11日)における報告
■1975年(昭和50年)			
医事法一道しるべ	別冊ジュリスト法学教室 (第Ⅱ期) 7号	197501	
イギリスにおける臓器移植の近況—ドナーカードと型合せセンター(世界の腎移植・4)	とらんすぶらんと 4号 (腎臓移植普及会)	197503	【再録】『臓器移植と脳死(イギリス)』第3章
婚姻予約の成否—いわゆる誠心誠意判決 —大判昭和6. 2. 20(法律新聞3240号4頁)	別冊ジュリスト 40号 『家族法判例百選 (新版・増補)』	197504	【再録】『選集』Ⅲ第7章
医療における法と倫理	玉医ニュース 116号 (玉川医師会)	197504	昭和50年3月18日の講演報告(文責 新井幸一)
戒能通孝博士を偲ぶ—略歴・戒能通孝	法律時報 47巻6号	197505	「戒能通孝先生とお別れする会」(1975年3月28日)で語ったことに加筆訂正をしたもの
『判例・通達 戸籍法』	第一法規出版	197505	【共編者】加藤一郎，唄孝一，川田昇，法務省民事局第二課職員

〈巻頭文〉 何故に学問を	法学セミナー 239号	197505	法学部ガイダンスの〈巻頭文〉 【初出】 国家と法 11号 (197204) 旧表題「不徒然草」
〈講演〉 医療過誤訴訟の問題点	日本弁護士連合会[編] 『昭和49年度 特別研修 叢書』	197507	
都立大学と戒能先生	法律時報 47巻9号 (特集・戒能博士の学問 と業績)	197508	
〈討論〉 金沢文雄報告「医師の応招義務と刑事責任」をめぐって	法律時報 47巻10号 (特集＝医師・患者の関 係)	197509	第6回日本医事法学会 シンポジウム 【発言者】 上田政雄 (司 会), 井上一三, 西三郎, 岡島道夫, 松倉豊治, 山 内健嗣, 高木武, 内藤 謙, 林良平, 有泉亨, 唄 孝一
「人事法案」の起草過程とその概要	星野英一[編集代表] 『私法学の新たな展開』 (我妻栄先生追悼論文 集), 有斐閣	197509	【共同執筆者】 利谷信義
『人事法Ⅱ』(民法新教科書5-Ⅱ)	有斐閣	197510	【共著者】 鈴木禄弥
『判例体系 戸籍法』(1)・(2)	第一法規出版	197599	【共編者】 加藤一郎, 唄 孝一, 川田昇, 法務省民 事局第二課職員
■1976年(昭和51年)			
〈講演〉 医療事故と医事法の問題点	日本耳鼻咽喉科学会医療 事故調査委員会[編] 『医事紛争とその問題 点』	197602	左記の学会医療事故調査 委員会における講演(昭 和46年9月24日) 速記
〈座談会〉 日本の親子法を考える	ジュリスト 607号	197603	【出席者】 猪瀬慎一郎, 島津一郎(司会), 田中 恒朗, 千種秀夫, 唄孝 一, 逸見武光, 星野英一
『医事判例百選』	別冊ジュリスト 50号	197604	【共編者】 成田頼明
「医事判例百選」の無理と道理	上掲書所収	197604	【共同執筆者】 成田頼明
〈対談〉 中川先生における相続と取引秩序	法学セミナー 253号(臨 時増刊) 『中川善之助 人と学 問』	197604	鈴木禄弥

〈座談会〉中川先生の学問をめぐって	法学セミナー 253号（臨時増刊） 『中川善之助 人と学問』	197604	【出席者】加藤永一，川島武宜，島津一郎（司会），唄孝一，星野英一，山島正男
〈安楽死—私はこう思う〉〈安楽死〉と〈尊厳死〉—尊厳死のかげにひそむ問題	Clinician 252号 （特集・クリニカル・トピックス） （エーザイ（株））	197607	
解題・カレン事件—シュピリア・コートの場合	ジュリスト 616号	197607	【再録】『生命維持治療』第2部
続・解題カレン事件—シュプリーム・コートの場合	ジュリスト 622号	197610	【再録】『生命維持治療』第2部
あとがき	我妻栄〔著〕 『民法と五十年』（その3），有斐閣	197607	
〈対談〉‘死ぬ権利’はどう裁かれたか—カレン裁判をめぐる法律と医療のかかわり	看護学雑誌 40巻8号 （特集・カレン裁判—‘尊厳ある死’と看護）	197608	熊谷義也
加藤一郎・鈴木潔〔監〕 『医療過誤紛争をめぐる諸問題—付・医療関係民事裁判例他資料』	法曹会	197610	【初出】法曹時報25巻10号～26巻10号（197310～197410）
医療における法と倫理	日本法哲学会〔編〕 『法と倫理』，法哲学年報（1975），有斐閣	197610	1975年度日本法哲学会における報告（1975年11月7日）に加筆訂正したもの
〈文化〉〈安楽死〉を考える—生きる権利確立こそ／社会が銘記すべき先決課題	読売新聞 昭和51年11月4日夕刊	197611	
■1977年（昭和52年）			
〈座談会〉「死ぬ権利」を論ずる前に—いわゆる植物状態患者の医療はいかにあるべきか	ジュリスト 630号 （特集・死をえらぶ権利）	197702	【出席者】池田節子，稲本晃，金沢文雄，鈴木二郎，唄孝一（司会），宮本忍
生きる権利・死ぬ権利—いま法学が直面する一つの課題として	世界 305号	197702	岩波文化講演会（1976年10月18日）の記録に加筆したもの 【再録】『生命維持治療』第4部
〈座談会〉家事調停における司法的機能と人間関係調整機能	ケース研究 159号	197703	【出席者】磯野誠一，唄孝一，安倍正三，野田愛子，橘勝治，梶村太市，西方潔，大木光子，中島清，篠田悦和，石山勝己，岩井俊（司会）

「比較郵便学」以前	『随想』(日本加除出版 創立35周年記念)	197704	
〈座談会〉家族の変質と家族法	ジュリスト増刊総合特集 6号『現代の家族』	197704	【出席者】加藤一郎(司 会), 那須宗一, 野田愛 子, 唄孝一
〈講演〉輸血の法律問題—輸血拒否を中心に	『日本輸血学会25周年記 念 第25回日本輸血学会 総会 演説要旨』, 日本 輸血学会	197706	
〈シンポジウム〉法制審議会身分法小委員会中 間報告(1975年8月1日)をめぐって—寄与分を 中心として	私法 39号	197709	日本私法学会第40回大会 民法部会シンポジウム (昭和51年10月10日) 【討論参加者】唄孝一 (司会), 沼正也, 稲本洋 之助, 小山昇, 千種達 夫, 小林三衛, 大原長 和, 渡辺洋三, 依田精 一, 川島武宜, 宮崎俊 行, 関谷俊作, 田中実, 島津一郎, 広中俊雄, 井 関浩, 稲子宣子, 石田 穰, 泉久雄, 加藤雅信, 北野弘久, 田中恒朗, 加 藤一郎, 星野英一
『親族法講義案』	有斐閣	197710	【共著者】鈴木禄弥
家事調停 総括にかえて—討論の要約	比較法研究 39号	197710	比較法学会第40回総会 シンポジウム「家事調 停」(1977年5月14日) 【再録】『選集』IV附録2
〈研究討論会〉法律社会学前進のために	民科法律部会[編] 『法社会学の諸問題』 (法社会学 別巻), 国書 刊行会	197711	【初出】法律時報 21巻5 号(194905)
■1978年(昭和53年)			
アメリカ判例法における輸血拒否—「死ぬ権 利」論の検討過程における一つのデッサン	東京都立大学法学会雑誌 18巻1・2合併号(喜多川 篤典教授追悼号)	197801	【再録】『生命維持治療』 第1部
Cases and Theories on the Refusal of Blood Transfusions in the United States	東京都立大学法学会雑誌 18巻1・2合併号(喜多川 篤典教授追悼号)	197801	上掲論文の英文抄録
〈講演〉Images of the Karen Quinlan Case, Real and Unreal	The Duke Colloquia on Health Policy, Duke University	197802	米デューク大学のThe Institute of Policy Sciences and Public Affairs主催の講演会 (1978年2月28日)

〈座談会〉西洋の医療事情—セント・クリストファーズ・ホスピスを中心に	人間の医学 15巻3号 (実地医家のための会)	197802	【発言者】渡辺淳(司会), 鈴木壮一, 宮島芳子, 三尾奎三, 神田修次, 天野曄, 藤田真一, 乾成夫, 上田篤次郎, 永井友二郎, 唄孝一, 小山五郎, 菊地博, 西来武治, 新野稔, 安田勇治, 北川欣也, 池田節子, 鈴木文夫ほか2名
〈講演〉死に対する医事法学的接近—輸血拒否に対する法的評価等も含めて	東京地裁広報 203号 (東京地裁事務局総務課広報係)	197803	東京地裁民事部の公害研究会(昭和52年9月26日)における講演に加筆訂正したもの
〈講演〉欧米医事法における2・3の問題—カレン事件以前・以後	日本弁護士連合会[編] 『昭和52年度 特別研修叢書』	197803	
序	医と法の会[著]『医と法第一集』, 医と法の会	197805	
民法学における擬制と事実—「婚姻予約」判例とのかかわりにおいて	家庭裁判所調査官研修所 所報 11号	197805	【再録】『選集』Ⅲ第2章
〈追論〉三本の指・「私」への介入	家庭裁判所調査官研修所 所報 12号	197905	【共同執筆者】磯野秀夫 【再録】『選集』Ⅲ附録2
『現代の社会問題と法』(現代法学全集 51)	筑摩書房	197806	【共著者】野村好弘, 宮沢浩一, 唄孝一
医療問題—「死」にたいする医事法学的接近	上掲書所収	197806	【再録】『脳死を学ぶ』第7章
移植の旅	上掲書付録15所収	197806	
法学から見た人間の生命	西山卯三[編]『人間の尊厳と科学』, 勁草書房	197806	
〈ベストセラー時評〉試験管の中の人間	諸君! 10巻10号	197810	【出席者】森本哲郎, 外山滋比古, 沢田允茂, 唄孝一
〈座談会〉職業倫理とは何か	ジュリスト 674号 (特集・職業倫理)	197810	【出席者】伊藤慎一, 伊藤正己(司会), 太田知行, 唄孝一, 宮原守男, 村上陽一郎
〈対談〉「安楽死」論議に欠けるもの—家族・医療・法	ジュリスト増刊総合特集 12号『高齢化社会と老人問題』	197811	長倉功

〈総合討論〉医師と法律家のコミュニケーションの必要性和可能性	ジュリスト 678号 (特集・医事法の今日的 問題) 197811	第9回日本医事法学会 「医師と法律家のコミュニケーション」(1978年6 月11日, 12日) 【発言者】唄孝一(司 会), 渡辺茂夫, 松井稔, 門脇稔, 高木武, 松浦鉄 也, 三藤邦彦, 下山瑛 二, 手塚一男, 笠貫宏, 松倉豊治, 有泉亨, 野田 寛, 高崎健, 我妻堯, 浅 井登美彦, 菅原勝伴, 福 間誠之, 小野恵子 【再録】日本医事法学会 [編]医事法学叢書第1巻 『医師・患者関係』, 日本 評論社(198607)
〈討論〉医師と患者の関係をめぐって	ジュリスト 678号 (特集・医事法の今日的 問題) 197811	上掲学会 【発言者】西三郎(司 会), 松野嘉貞, 下山瑛 二, 有泉亨, 渡辺茂夫, 浅井登美彦, 渡辺治生, 沢井裕, 山田卓生, 福間 誠之, 我妻堯, 唄孝一, 松倉豊治, 金沢文雄, 武 村信義, 井上一三, 丸山 正次, 肥後政平, 野田 寛, 鈴木大輔, 清水昭 美, 石垣君雄 【再録】日本医事法学会 [編]医事法学叢書第1巻 『医師・患者関係』, 日本 評論社(198607)
〈討論〉「手術」	日本外科系学会連合会誌 4号 197811	第3回医療事故研究会 主演題「医療事故を巡っ て」(昭和52年3月5日) 【発言者】斉藤渥, 原秀 男(司会), 守屋荒夫, 加藤一昶, 松倉豊治, 吉 村敬三, 唄孝一, 石田正 統, 松浦鉄也, 秋谷忍ほ か
民法改正一我妻先生への質問と報告	法律時報 50巻13号臨時 増刊『昭和の法と法学』 197812	【再録】『選集』Ⅰ第3章
■1979年(昭和54年)		
生命の人工調節と法のかかわりあい	産科と婦人科 46巻1号 (特集・生命の伝達への 人工介入と妊娠用語) 197901	

〈対談〉体外受精と医事法	Law School 2巻1号 (立花書房)	197901	人見康子
〈共同研究〉医療と刑法	刑法雑誌 22巻3=4号	197902	日本刑法学会第53回大会 (昭和52年11月8日) における討論 【討論参加者】 太谷実 (司会), 福田平, 西山雅 明, 森岡亨, 町野朔, 井 上祐司, 武村信義, 唄孝 一, 松倉豊治, 佐伯千 俣, 植松正, 大嶋一泰, 宮野彬, 金沢文雄, 西原 春夫, 平野龍一
かいまみたホスピス	人間の医学 16巻2号 (実地医家のための会)	197903	【再録】『生命維持治療』 第4部
第3話題提供者	医学と医療 145号 医学と医療 146号	197903 197904	第24回シンポジウム「医 療過誤—医療供給体制の 一環として」(昭和53年 11月19日) 【出席者】 穴田秀男, 飯 田英男, 唄孝一, 開田敏 雄 (司会)
法学者の見たライフサイエンス	Medical View 14巻4号 (メジカルビュー社)	197904	
〈死〉・医療・法	エピステーメー 1979年5 月号(特集・化学反応機 械の病理学) 朝日出版社	197905	
Around the Karen Quinlan Case—Interview with Judge R. Muir	The International Journal of Medicine and Law, Volume 1 Number 1 (Summer 1979)	197908	カレン事件の原審担当 ミューア判事との会談 (1978年3月8日) 記録 邦語版は後出ジュリスト 712号〜714号 (198003, 198004) に掲載
〈対談〉法と倫理	平井宜雄[編著]『法律 学』(社会科学への招待) 日本評論社	197909	矢崎光圀
アメリカの判決例にあらわれた臨死医療	日本医師会[編]『ライ フ・サイエンスの進歩 第6集—ライフ・サイエ ンスと福祉国家』(日本 医師会特別医学分科会リ ポート 1979), 春秋社	197910	日医特別医学分科会第3 部会(福祉環境論)のシ ンポジウム(昭和53年12 月7日)における報告

〈総合討論〉福祉環境をめぐって	上掲書所収	197910	上掲第3部会において唄報告を含む5報告のあとに行われた総合討論 【発言者】小泉明（司会）、小此木啓吾、唄孝一、気賀健三、藤掛敏、山本幹夫ほか
脳死・安楽死・尊厳死	からだの科学臨時増刊 『ライフサイエンス入門』	197910	
デンマークの臓器移植法（世界の腎移植・7）	とらんすぶらんと 9号 （腎臓移植普及会）	197910	
多数当事者間の扶養関係—とくに義務者多数の場合について	中川善之助先生追悼「現代家族法大系」編集委員会[編]『親子・親権・後見・扶養』（現代家族法大系 3）、有斐閣	197912	【共同執筆者】鈴木祿弥
The Concept of Death in Japanese Law	JUS MEDICUM 5, ACTA Third World Meeting on Medical Law	197999	第3回世界医事法会議於・гент（1973年8月19日～23日）
■1980年（昭和55年）			
〈座談会〉医事法学をめぐって—現代法思想へのアプローチ	日本歯科評論 447号 （特集・医療と法律）	198001	【出席者】唄孝一、金田賢三、榎本貞司、小林俊三
死における医療と法	柿内賢信・勝見允行[編]『バイオエシックス』（ICU一般教育シリーズ 4） 発行 国際基督教大学教養学部一般教育主任 絹川正吉	198001	
〈座談会〉我妻栄先生を偲ぶ会	書斎の窓 291号	198002	1979年10月20日七周忌を迎える日の前日開催された「偲ぶ会」における 【発言者】加藤一郎（司会）、鈴木竹雄、川島武宜、来栖三郎、野田愛子、星野英一、唄孝一、我妻洋、有泉亨
〈対談〉医師と患者の関係をめぐって	病院 39巻2号	198002	砂原茂一
カレン事件をめぐって—ミューア判事にきく（全3回）			【再録】『生命維持治療』第2部
（上）どういう手続ではじまったか 最高裁の修正差戻後のこと	ジュリスト 712号	198003	

(中) 実体的な争点—プライバシー 医療基準／死の問題	ジュリスト 713号	198004	
(下) (承前) —他の諸要因／社会の関心の ただ中で／〔附〕クワッケンブッシュ 事件	ジュリスト 714号	198004	
続・イギリスにおける臓器移植の法的状況 (全6回)			【再録】『臓器移植と脳 死 (イギリス)』第3章
1—75年通達による現行法の解釈と脱皮 (世界の医事法・16)	法律時報 52巻3号	198003	
2—77年2通達における死体検査と組織摘出 (世界の医事法・17)	法律時報 52巻4号	198004	
3—その後の議員立法 (1974-6) (世界の医事法・18)	法律時報 52巻5号	198005	
4—プロフェッションの意見・その1 (世界の医事法・21)	法律時報 52巻9号	198009	
5—プロフェッションの意見・その2 (世界の医事法・22)	法律時報 52巻10号	198010	
6—プロフェッションの意見・その3 (世界の医事法・23)	法律時報 52巻11号	198011	
〈座談会〉遺言の実態と課題	ジュリスト 714号 (特集・遺言の実態と課 題)	198004	【出席者】猪瀬慎一郎, 加藤一郎 (司会), 唄孝 一, 播本格一, 山本博
〈調査研究〉土建請負の工事現場における親分 子分関係—1947年のある飯場			
(1) 作業工程と所有＝管理＝労働の各組織 賃金 (金の動き)／飯場経営	家族史研究 1集	198005	【再録】『選集』IV第5章
(2) 親分・子分関係 補説 労務者の社会的背景と意識形態	家族史研究 2集 (大月書店)	198010	
『人事法 I』(民法新教科書5-1)	有斐閣	198007	【共著者】鈴木禄弥
F 修道士の「死」—ニューヨークにおける延命 拒否事件			
(上) 事実—申立の基礎／レスピレーターの 撤去／延命拒否権 (世界の医事法・19)	法律時報 52巻7号	198007	
(下) 無能力者による延命拒否権の行使 むすびと課題 (世界の医事法・20)	法律時報 52巻8号	198008	
〈対談〉世間・家・健康・権利—法意識の若干 の側面	ジュリスト増刊総合特集 20号『日本の大衆文化』	198010	多田道太郎
〈文化〉ホスピスに見る医の心	朝日新聞 昭和55年年11月17日夕刊	198011	【再録】『生命維持治療』 第4部

医療における法的コントロールの意味と限界 （〈臨時連載〉医療とのかかわり合い／第12回 蕪山カンファレンスから ③）	Life Science 7巻10号 （（社）生命科学振興会）	198012	【再録】『人間の生存を めぐって』、フナイ薬品 工業（株）（198303）
The International Scene : Consent in Japan	Health Law in Canada Vol. 1, No. 3 (Symposium Issue on Consent-Part I) (Autumn 1980), Canadian Institute of Law and Medicine	198099	
■1981年（昭和56年）			
医療過誤における法と倫理	矯正医学 23・24巻1〜4 号合併号（1975年11月）	198103	
〈座談会〉中川善之助先生追悼の会—『現代家 族法大系』の完結を記念して	書齋の窓 302号	198103	【出席者】島津一郎（司 会）、高柳真三、加藤一 郎、谷口知平、小石寿 夫、立石芳枝、沼辺愛 一、江草四郎、野田愛 子、唄孝一、中川綾子
家族法を学ぶための第一則—その日常性と非日 常性	法学セミナー 316号	198106	【再録】『選集』Ⅲ第3章
〈資料〉カリフォルニア自然死法の成立過程	東京都立大学法学会雑誌 22巻1号	198107	【再録】『生命維持治療』 第3部
〈Note〉Materials on the Making-process of the Natural Death Act(1976) in California	東京都立大学法学会雑誌 22巻1号	198107	上掲資料の英文抄録
「脳死」をめぐる社会と法	移植 16巻 総会臨時号 （プログラム、抄録集）	198108	第17回日本移植学会総会 シンポジウム「脳死の諸 問題」（昭和56年9月11 日） 【発言者】稲生綱政（司 会）、太田和夫、落合武 徳、竹内一夫、樋口和 彦、唄孝一、三枝充恵
バイオエシックスと法の役割—「社会的合意」 探究と表裏して	理想 579号（特集・バイ オエシックス 生命の論 理と倫理）	198108	
〈コメント〉自己決定権と医の倫理	日本医師会〔編〕『ライ フ・サイエンスと自由— ライフ・サイエンスの進 歩 第8集』、春秋社	198112	日医特別医学分科会第4 部会（倫理学と自由）の シンポジウム（昭和56年 7月10日）におけるコメ ント

〈総合討論〉倫理と自由をめぐる	上掲書所収	198112	上掲『ライフ・サイエンスと自由』をめぐる全4回のシンポジウムのあとに設定された第5部会（総合討論）のうち上掲第4部会に関わる討論（昭和56年7月10日） 【発言者】渡辺慧（司会）、藤沢令夫、碧海純一、沢田允茂、唄孝一、江見康一、山本達郎、尾田博、荒谷真平、藤掛敏
〈座談会〉わが研究生生活をふりかえる	社会科学研究 33巻5号 （渡辺洋三教授還暦記念号） （東京大学社会科学研究所）	198112	【出席者】渡辺洋三（語り手）、江守五夫、大石嘉一郎、利谷信義、唄孝一、藤田勇、稲本洋之助（司会）

■1982年（昭和57年）

続・「死」に対する医事法学的接近（全15回）			【再録】『脳死を学ぶ』第8章
1—その1 イギリスの場合（つづき） （世界の医事法・25）	法律時報 54巻1号	198201	
2—その1 イギリスの場合（つづき） （世界の医事法・25）	法律時報 54巻2号	198202	
3—その2 アメリカの場合 （世界の医事法・26）	法律時報 54巻3号	198203	
4—その2 アメリカの場合（2） （世界の医事法・27）	法律時報 54巻4号	198204	
5—その2 アメリカの場合（3） （世界の医事法・28）	法律時報 54巻5号	198205	
6—その2 アメリカの場合（4） （世界の医事法・29）	法律時報 54巻6号	198206	
7—その2 アメリカの場合（5） （世界の医事法・30）	法律時報 54巻10号	198210	
8—その2 アメリカの場合（6） （世界の医事法・31）	法律時報 55巻2号	198302	
9—その2 アメリカの場合（7） （世界の医事法・32）	法律時報 55巻3号	198303	【共同執筆者】福間誠之
10—その2 アメリカの場合（8） （世界の医事法・33）	法律時報 55巻4号	198304	
11—その2 アメリカの場合（9） （世界の医事法・34）	法律時報 56巻10号	198409	

12—その2 アメリカの場合 (10) (世界の医事法・35)	法律時報 56巻11号	198410	
13—その2 アメリカの場合 (11) (世界の医事法・36)	法律時報 57巻4号	198503	
14—その2 アメリカの場合 (12) (世界の医事法・37)	法律時報 57巻5号	198504	
15—その2 アメリカの場合 (13)・完 (世界の医事法・38)	法律時報 57巻8号	198507	
〈資料〉ケンブリッジ市の遺伝子操作に関する 規制条例	朝日ジャーナル 1982年1 月29日増大号 (24巻4号) (「科学の国」の行く手)	198201	【翻訳】
安楽死—〔法的な立場からみた安楽死〕	『医科学大事典』 Encyclopedia of Medical Sciences 第2 巻, 講談社	198203	
終末医療についての法的問題	大阪の病院 8号 (第1回 大阪病院学会特集号), (社)大阪府病院協会・ (社)大阪府私立病院協会	198205	第1回大阪病院学会 シ ンポジウム「終末医療に ついて一生と死をみつめ て」(1981年9月27日) 【シンポジスト】吉岡観 八 (座長), 熊原雄一, 中川米造, 唄孝一, 江見 康一, 橋本峰雄
討論を聞いて 第4議題・医療技術と倫理— 「尊厳死」とともに「生きる権利」の論議を	朝日ジャーナル 1982年6 月10日増刊号	198206	1982年4月20日～22日 に 朝日新聞社と朝日イブニ ングニュース社主催の国 際シンポジウム (科学と 人間) において, [医療 技術] の報告と討論をき いたあとのコメント
〈文化〉脳死めぐる医師と市民／基準と通念に 隔たり／医への信頼が理解の鍵	朝日新聞 昭和57年10月15日夕刊	198210	【再録】『脳死を学ぶ』 第10章
〈討論のひろば〉脳死と臓器移植	朝日新聞 昭和57年11月16日	198211	【出席者】遠藤周作, 太 田和夫, 竹内一夫, 松村 満美子, 唄孝一
死—〔死の判定〕	『医科学大事典』 Encyclopedia of Medical Sciences 第18 巻, 講談社	198211	文末に1981年12月執筆と ある
Recent Amendments to the Vaccination Act in Japan	JUS MEDICUM 6, ACTA Fourth World Congress on Medical Law	198299	第4回世界医事法会議 於・マニラ (1976年7月 16日～19日)

Implications of the Karen Quinlan Case— Real and Imaginary	JUS MEDICUM 7, ACTA Fifth World Congress on Medical Law	198299	第5回世界医事法会議 於・ゲント (1979年8月 19日～23日)
補足2	『社会福祉事業研究開発 基金による研究班研究報 告書—腎移植による腎不 全患者の社会復帰促進対 策 昭和56年度研究課 題：脳死』	198211	【研究組織】岩崎洋治 (代表研究者), 唄孝一, 竹内一夫, 牧豊, 藤田真 一, 加納克己, 横山健郎 【再録】『脳死を学ぶ』第 10章の注
■1983年 (昭和58年)			
ジン臓摘出の「時」十分な検討を／欠かせぬ提 供者の承諾	読売新聞 昭和58年3月3日	198303	【再録】『脳死を学ぶ』 第11章II3
「死ぬ権利」(?) をめぐる家族・医師・社会 —アメリカの先例を中心として	医学研究振興財団[編] 『人間の生命について考 える—シンポジウム「生 命のみかた」より』, 講 談社	198303	財団設立10周年記念の左 記シンポジウムのうち, 「医学からみた人間生命」 部門 (豊倉康夫・植木幸 明座長) で行われた報告 (昭和57年1月17日)
医療における法的コントロールの意味と限界	『人間の生存をめぐつ て』, フナイ薬品工業 (株)	198303	経済学・法学・心理学・ 音楽の専門家7名がそれ ぞれの専門分野と「医療 とのかかわり合い」につ いて討議した第12回蕁山 カンファレンス (昭和55 年7月) における報告 【出席者】江見康一, 中 鉢正美, 唄孝一, 植松 正, 岡堂哲雄, 桜林仁, 村井靖児 【初出】Life Science 7 巻10号 (198012)
〈討論〉福岡報告「脳死の基準と死の宣言」を めぐって	法律時報 55巻4号	198304	日本医事法学会第12回総 会における福岡報告をめ ぐる討論 【発言者】唄孝一 (司 会), 大嶋一泰, 福岡誠 之, 清水昭美, 福岡広 幸, 中山研一, 甲斐克 則, 荻原隆二, 吉村三 郎, 金川琢雄, 橋本雄太 郎, 岩崎洋治, 長倉功, 佐藤暢, 永井友二郎, 浅 井登美彦, 植松正, 金沢 文雄, 加藤一郎
ターミナルケアと法律	診断と治療 71巻5号 (特集・ターミナルケア (末期患者医療))	198305	【再録】『生命維持治療』 第4部

「脳死」の考え方—方法論的検討に向けて	日本移植学会[編] 『脳死と心臓死の間で— 死の判定をめぐる〈脳 死シンポジウム〉』 メヂカルフレンド社	198306	日本移植学会 脳死に関 するシンポジウム (昭和58年2月12日)
〈討論〉「脳死問題」とはなにか	上掲書所収	198306	上掲シンポジウム 【出席者】桑原安治(司 会), 竹内一夫, 岩崎洋 治, 篠原幸人, 錫谷徹, 唄孝一, 宮城音弥ほか一 般参加者 【再録】『脳死を学ぶ』 第11章Ⅱ1・2
〈対談〉脳死をめぐる	Creata 69号 (日本メルク 萬有(株))	198306	竹内一夫
〈講演〉注射事故(臨床と解剖セミナー・47)	医学のあゆみ 125巻13号 (医歯薬出版)	198306	【共同執筆者】赤石英
〈文化〉尊厳死の“虚像”を憂える／米報告の 精密な検討を	朝日新聞 昭和58年7月19日夕刊	198307	【再録】『生命維持治療』 第4部
「脳死論」の当面する諸問題	自由と正義 34巻7号 (特集・生命・医療・法)	198307	関東弁護士会連合会人権 擁護委員会主催「脳死」 勉強会(昭和58年1月18 日) 【再録】『脳死を学ぶ』 第9章
〈巻頭言〉医療における器械事故とその責任	PLニュース 18号 (武田薬品工業(株))	198308	
『医療と法と倫理』	岩波書店	198309	【編著者】
二論文(西三郎「医療の発展と変貌」, 矢崎光 圀「医療をめぐる法と倫理」)へのコメント	上掲書所収	198309	
アメリカにおけるいわゆる「死ぬ権利」(?) 判決の動向—医療と裁判との間で	上掲書所収	198309	【再録】『生命維持治療』 第1部
法的判断における学際的学習の不可欠性	『医学研究振興財団10年 のあゆみ 難病に光をか かげて』, 医学研究振興 財団	198309	
〈特別座談会〉脳死について	とらんすぶらんと 13号 (腎臓移植普及会)	198309	【出席者】竹内一夫, 唄 孝一, 岩崎洋治, 大熊由 紀子, 植松正, 海堀洋平 (司会)

医事法の立場から（特別発言）	『第2回日本蘇生学会総会 プログラム・抄録』	198309	シンポジウム「蘇生学における死をめぐる」 (昭和58年9月30日) 【出席者】岡田和夫・武下浩（座長）、森岡亨、下地恒毅、竹内一夫、青地修、太田和夫、高橋公太、唄孝一
生命維持治療を受けない条件—大統領委員会報告書は「尊厳死」を認めたか（全7回）			【再録】『生命維持治療』第1部
(1) 委員会の任務における本報告書の位置	判例タイムズ 500号	198309	
(2) 報告書のねらい／構成／内容	判例タイムズ 502号	198310	
(3) 報告書の内容—その背景	判例タイムズ 504号	198311	
(4) 報告書の内容—よき決定の諸要素	判例タイムズ 510号	198401	
(5) (承前)	判例タイムズ 512号	198402	
(6) (承前)／伝統的な道徳的区分の役割の再検討	判例タイムズ 515号	198403	
(7) (承前)	判例タイムズ 517号	198404	
死をめぐる医療と法と家族	家族問題研究会[編]『家族研究年報 No. 9』 (家族問題研究会)	198310	シンポジウム「死とそれをめぐる諸問題」 (1983年4月23日) 【報告者】青井和夫、松村健生、奥川幸子、唄孝一
法と社会からみた人工臓器	第21回日本医学会総会記録委員会[編]『第21回日本医学会総会誌』(三分冊) 第21回日本医学会総会準備委員長 阿部裕	198311	
世界医事法学会とディアケンズ教授	ジュリスト 804号	198312	【再録】日本医事法学会[編]医事法学叢書第5巻『医療と生命』, 日本評論社 (198610)

《討論》アメリカのNurse Practitionerにみる 医療業務と責任の再配分	ジュリスト 804号	198312	第13回日本医事法学会 シンポジウム（昭和58年 9月25日） 【発言者】我妻堯（司 会）、浅井賢、唄孝一、 平林勝政、草刈淳子、松 木光子、藤崎清道 【再録】日本医事法学会 【編】医事法学叢書第4巻 『医療の制度と保障』、日 本評論社（198609）
Definition of Death - Brain Death in Particular from a Social Standpoint	人工臓器 12巻2号	198399	第20回日本人工臓器学会 シンポジウム （1982年9月12日）
■1984年（昭和59年）			
「生命の質」論の位置づけ	医学研究振興財団【編】 『生命科学は医療を変え るか—シンポジウム「生 命科学の発展と医学」よ り』、講談社	198402	医学研究振興財団主催 シンポジウム「Ⅲ バイ オエシックス」（昭和58 年1月23日） 【シンポジスト】甲野禮 作・塚田裕三（座長）、 木村利人、佐藤智、岩村 昇、稲田献一、古川俊 之、唄孝一、井深大、日 野原重明
死をめぐる「医療と法」	東京女子医科大学雑誌 54巻2号	198402	東京女子医科大学学会第 49回総会（昭和58年9月 24日）のシンポジウム 「医療における死をめ ぐって」
班報告（第1班 研究課題：医の倫理）	文部省科学研究費補助金 特定研究『21世紀へ向け ての医学と医療 （No. 59127036）』（昭和 58年度研究報告書）	198403	左記の特定研究は1983年 から3年間、補足的にさ らに1年間森亘研究代表、 下記10名の班長のもと 約90名の研究者によって 推進された。 【研究組織】森亘（研究 代表者・総括班班長）唄 孝一（第1班班長）、加藤 一郎（第2班班長）、吉利 和（第3班班長）、宇沢弘 文（第4班班長）、辻村明 （第5班班長）、斎藤正男 （第6班班長）、粕谷豊 （第7班班長）、日野原重 明（第8班班長）、阿部正 和（第9班班長）、本間三 郎（第10班班長）

「医の倫理」研究の方法を求めて	上掲『報告書』所収	198403	上記特定研究に取り組む10の研究班がそれぞれ研究発表をする全体会議＝総会（昭和59年2月25日）において第1班（医の倫理）班班長が行った報告 第1班の【研究組織】 唄孝一（班長），宇都木伸（幹事），塚田裕三，中川米造，中村桂子，村上陽一郎，坂上正道 【再録】『21世紀へ向けての医学と医療』，日本評論社（198502）
〈総合討論〉	上掲『報告書』所収	198403	上記総会における討論 【発言者】稲田猷一（司会），池見西次郎，砂原茂一，辻村明，加藤一郎，唄孝一，井口潔，中川米造，高久史麿，香月秀雄 【再録】『21世紀へ向けての医学と医療』，日本評論社（198502）
先生あり言葉あり	学士会会報 763号	198404	
〈書評〉砂原茂一〔著〕『医者と患者と病院と』	日経サイエンス 1984年4月号	198404	
新状況下での「脳死」論 一法律家の苦吟	臨床成人病 14巻4号（特集・脳死，その問題点）	198404	【再録】『脳死を学ぶ』第11章Ⅲ1
〈特別発言〉医事法学的視点からみた「死」	蘇生 2巻	198405	第2回日本蘇生学会総会シンポジウム「蘇生学における死をめぐる」（昭和58年9月30日） 【出席者】岡田和夫・武下浩（座長），森岡亨，下地恒毅，竹内一夫，青地修，太田和夫，唄孝一
〈私たちの例会〉脳死と「ある法学者」とのかかわり	人間の医学 20巻3号（実地医家のための会）	198405	第231回「実地医家のための会」「実地医家は死をどうみとるかー脳死・臓器移植と関連して」（昭和58年12月11日） 【発言者】永井友二郎・中山脩郎（司会），日向野晃一，佐藤安正，栗原伸夫，鈴木荘一，藤田真一，西三郎，唄孝一ほか 【再録】『脳死を学ぶ』第11章Ⅰ

法的にみた臓器移植（死後に生きる）	からだの科学臨時増刊 『現代の生と死』	198406	
〈対談〉日本の医療を問う—松田道雄先生に聞く	加藤一郎・森島昭夫[編] 『医療と人権—医師と患者のよりよい関係を求めて』、有斐閣	198409	松田道雄
〈シンポジウム〉養子法の課題	私法 46号	198409	日本私法学会第47回大会 （昭和58年10月10日）民 法部会のシンポジウム 【討論参加者】加藤一 郎・唄孝一（司会）、山 畠正男、中川高男、山本 正憲、米倉明、石川稔、 床谷文雄、米沢普子、菊 地緑、西原道雄、及川 伸、滝沢幸代、川井健、 久貴忠彦、小林三衛、谷 口知平、野田愛子、大森 政輔
臓器移植の比較法的研究—報告の趣旨・問題の 限定	比較法研究 46号	198410	比較法学会第47回総会 （1984年6月3日・4日）第 2日に行なわれたシンポ ジウムにおける研究報告
臓器移植の比較法的研究—各国の立法 イギリ ス、その他	比較法研究 46号	198410	上掲シンポジウム
臓器移植の比較法的研究—討論に学ぶ 結びに 代えて	比較法研究 46号	198410	上掲シンポジウム
A Comparative Legal Study of Organ Transplantation - The Legal Situation in Japan - On the Act Concerning the Transplantation on Cornea and Kidney	比較法研究 46号	198410	上掲シンポジウム 【共同執筆者】平林勝政
Whose Consent Shall Make Organ Removal Lawful ?	比較法研究 46号	198410	上掲シンポジウム 【共同執筆者】平林勝政
〈特別発言〉「生命の質」論への懸念	死の臨床 7巻1号 （死の臨床研究会）	198412	第7回死の臨床研究会 シンポジウム「末期がん 患者の生命の質につい て」（昭和58年11月27日） 【出席者】河野博臣・中 西通泰（司会）、杉山善 朗、アルフォンス・デー ケン、西森三保子、原義 雄、柿本謙誠、唄孝一
Patients' Autonomy in Japan Viewed in Terms of Consent	JUS MEDICUM 10, ACTA Sixth World Congress on Medical Law	198499	第6回世界医事法会議 於・ゲント（1982年8月 22日～26日）

脳死—法律家の立場から	Current Concepts in Critical Care (重症患者管理—今日の考え方) 1巻3号(シーバー&マッキンタイヤ Inc. 日本支社)	198499	(文責 佐久間光江)
■1985年 (昭和60年)			
脳死と民法 (上)	ジュリスト 828号 (特集・現代社会と民法学)	198501	【再録】『脳死を学ぶ』13頁・81頁
「医の倫理」研究の方法を求めて・質疑応答	21世紀へ向けての医学と医療研究班 (代表 森亘) [編]『21世紀へ向けての医学と医療』, 日本評論社	198502	【質疑応答参加者】加藤一郎, 森亘, 本間三郎, 砂原茂一, 唄孝一 【初出】『21世紀へ向けての医学と医療』(昭和58年度研究報告書) (198403)
〈総合討論〉	上掲書所収	198502	【初出】『21世紀へ向けての医学と医療』(昭和58年度研究報告書) (198403)
医療の科学性・倫理性と法の役割—人権としての生命倫理について	日本医師会雑誌 93巻6号	198503	昭和59年度家族計画・優生保護法指導者講習会
〈座談会〉磯野誠一先生を囲んで	神奈川法学 20巻1=2=3合併号	198503	【出席者】磯野誠一, 唄孝一, 利谷信義, 萩原金美, 吉井蒼生夫, 川田昇(司会)
死—〔死をめぐる法律問題〕	『大百科事典』第6巻 平凡社	198503	【共同執筆者】星野澄子
生命科学—〔生命科学と生命倫理〕	『大百科事典』第8巻 平凡社	198503	
〈社会〉と法からみた脳死	『死の判定について』 日本法医学会	198503	第68次日本法医学会総会シンポジウム「死の判定について」(昭和59年5月15日) 【出席者】神田瑞穂(司会), 竹内一夫, 桂田菊嗣, 唄孝一, トーマス・T・ノグチ, 上野正彦, 龍野嘉紹, 若杉長英, 北濱睦夫, 小片重男 【再録】『脳死を学ぶ』第11章Ⅲ2
臓器移植についての比較法的研究	昭和58年度『研究調査経過結果報告書』, 日本証券奨学財団	198503	

班報告（第1班 研究課題：医の倫理）	文部省科学研究費補助金 特定研究『21世紀へ向 ての医学と医療』（昭和 59年度研究報告書）	198503	【研究組織】 唄孝一（班 長）、宇都木伸（幹事）、 坂上正道、塚田裕三、中 川米造、中村桂子、村上 陽一郎、福岡誠之
〈討論〉患者と医師／死の判定をめぐる／医 師と医学教育／まとめ	上掲『報告書』所収	198503	班連合会議 課題1「医 学とバイオエシックス」 （昭和60年1月28日） 【発言者】 斎藤正男（司 会）、坂上正道、唄孝一、 菊地真、村上陽一郎、懸 田克躬、中川米造、金井 寛、宇沢弘文、吉利和、 本間三郎、稲田献一
脳死を考える	人権新聞 246号 （（社）自由人権協会）	198504	左記協会2月例会におけ る報告（文責 編集部）
〈シンポジウム〉老人問題—家族法とのかかわ りあいを求めて	日本家族〈社会と法〉学 会〔編〕『老人問題—家族 法とのかかわりあいを求 めて』、家族〈社会と法〉 No. 1（1985） 日本加除出版	198506	【討論参加者】 中川淳 （司会）、唄孝一、谷口知 平、加藤一郎、逸見武 光、植田舜二、野田愛 子、松嶋由紀子、橋本明 子、清永昭子、石川稔、 古瀬徹、湯沢雍彦、森幹 郎、米山隆、深谷松男
〈討議〉臓器移植の現在	日本移植学会〔編〕 『続：脳死と心臓死の間 で—臓器移植と死の判 定』 メヂカルフレンド社	198507	日本移植学会主催 第1部「臓器移植の勉強 会」 第2部「脳死の勉強会」 （昭和59年11月24日） 【発言者】 岩崎洋治（総 合司会）、橋本勇（第1部 司会）、曲直部壽夫（第2 部司会）、糸井素一、太 田和夫、山田一正、深尾 立、小柳仁、植村研一、 竹内一夫、唄孝一、渡辺 格、加藤一郎、佐藤悠ほ か 本項は第1部「臓器移植 の勉強会」における討議
死の時点はどこに置くか	上掲書所収	198507	第2部「脳死の勉強会」 における指定発言 【再録】『脳死を学ぶ』 第11章Ⅲ3
〈討議〉脳死をめぐる	上掲書所収	198507	第2部「脳死の勉強会」 における討議
福武直・佐分利輝彦〔監〕 『医療と人権』（明日の医療 9）	中央法規出版	198507	【編著者】

〈Talk〉 人間・病・医療・科学—本巻の課題	上掲書所収	198507	【出席者】内田義彦, 川喜田愛郎, 唄孝一 (司会)
〈Interview〉 患者からの願い	上掲書所収	198507	【出席者】田村三郎, 唄孝一 (インタビュアー)
〈Forum〉 出産の周辺	上掲書所収	198507	【出席者】中谷瑾子, 我妻堯, 唄孝一 (司会)
〈Forum〉 21世紀の医療をどう演出するか	福武直・佐分利輝彦[編]『21世紀の医療』(明日の医療 10), 中央法規出版	198507	【出席者】青山英康, 那須宗一, 渥美和彦, 石原信吾, 唄孝一, 阿部正和, 江見康一, 小山路男, 藤井誠一, 福武直・佐分利輝彦 (司会)
〈編集後記〉 医療と人権	上掲書所収	198507	
〈座談会〉 GCPをめぐる—より科学的・倫理的な臨床治験のために	臨床医薬 1巻6号	198508	(昭和60年7月25日) 【出席者】本間光夫, 砂原茂一, 唄孝一, 岩井一成
医と法と倫理—法学徒から医療人への要望	日本病理学会誌 74号	198509	第74回日本病理学会総会特別講演 (昭和60年4月17日)
〈法と現代〉「新・人工授精」論	判例タイムズ 559号	198509	
〈対談〉 脳死調査は何を語るか—厚生省「脳死に関する研究班」報告書の意義	ジュリスト 844号	198509	竹内一夫
脳死問題に対するわが法学者の対応 (全3回)			
(1) 法学者の対応／第1・2期	月刊法学教室 61号	198510	
(2) 第3期 Aグループ／Bグループ	月刊法学教室 62号	198511	
(3・完) 私の歩いた道をふり返る	月刊法学教室 63号	198512	
〈聞き書き〉 動き出したデンマークの脳死	理想 631号 (特集・揺れ動く生命観)	198512	
法的にみたターミナル・ケア	『対がん戦略研究事業「がん患者に対する終末期医療のあり方に関する研究」(昭和59年度)』	198599	分担報告・抄録および論文 【研究組織】芳賀敏彦 (主任研究者), 河野裕明, 松山智治, 都留綾子, 松本明子, 柏木哲夫, 鈴木莊一, 谷莊吉, 唄孝一

■1986年（昭和61年）

〈今月の視点〉救急業務に思うこと	とうきょう広報 37巻2号 （特集・東京都の救急業務をめぐって）	198602	
〈座談会〉新脳死基準と死の容認	医療'86 2巻2号 （特集・日本人と“脳死”） （メヂカルフレンド社）	198602	【出席者】高倉公朋，竹内一夫，唄孝一，水野肇（司会） 【再録】『日本の医療の行く手を読む』メヂカルフレンド社(198610)
〈オピニオン〉脳死問題の法と社会（全5回）			兼子昭一郎（聞き手）
(1) 法律に死の明確な規定はない 自明のこととして触れず	サンケイ新聞 昭和61年4月16日	198604	
(2) 法の上では死は「点」である 生物学はプロセスとみるが	サンケイ新聞 昭和61年4月17日	198604	
(3) 医師だけでは変えられない 死の概念社会的な承認が必要	サンケイ新聞 昭和61年4月18日	198604	
(4) 脳死＝個体死で社会的合意を 移植を人道的にするために	サンケイ新聞 昭和61年4月21日	198604	
(5) まず医師が問題点の解明を 立法化の前にすべきこと	サンケイ新聞 昭和61年4月22日	198604	
40年ひと昔	八星会[編] 『谷口知平先生傘寿記念文集』 東洋紙業高速印刷（株）	198604	
創刊の辞	日本医事法学会[編] 『年報医事法学 1』 日本評論社	198606	
〈討論〉いわゆる「尊厳死」状況と医事法学	上掲書所収	198606	日本医事法学会第15回総会 【発言者】唄孝一（司会），白井泰子，福増広幸，荻原隆二，宮野彬，内藤謙，佐々木智影，後藤進，支倉逸人，福岡誠之，浅井登美彦，甲斐克則，加藤良夫，金沢文雄，加藤一郎
第7回世界医事法会議について	上掲書所収	198606	【共同執筆者】尾中普子
刊行に当って	日本医事法学会[編] 『医事法学叢書』第1巻～第5巻，日本評論社	198607- 198610	

〈討論〉医師の心，患者さんの心	日本医事法学会[編] 医事法学叢書第1巻 『医師・患者関係』 日本評論社	198607	【初出】ジュリスト 568号 (197408)
〈討論〉医師と患者の関係をめぐって	上掲書所収	198607	【初出】ジュリスト 678号 (197811)
〈総合討論〉医師と法律家のコミュニケーションの必要性和可能性	上掲書所収	198607	【初出】ジュリスト 678号 (197811)
〈対談〉患者の自己決定権はなぜ必要か—医と法の接点で	世界 491号 (1986年8月号)	198608	松田道雄
〈座談会〉人生80年時代の健康と医療	ジュリスト増刊総合特集 44号『日本の医療—これから』	198609	【出席者】小泉明，園田恭一（司会），中野進，唄孝一
脳死—法学者としての立場から	『日本移植学会20周年記念誌』，日本移植学会	198609	
〈討論〉「健康権」（？）をめぐって—医療の中心にあるものは何か	日本医事法学会[編] 医事法学叢書第4巻 『医療の制度と保障』 日本評論社	198609	【初出】ジュリスト 538号 (197307)
〈討論〉アメリカのNurse Practitionerにみる医療業務と責任の再配分	上掲書所収	198609	【初出】ジュリスト 804号 (198312)
〈座談会〉新脳死基準と死の容認	メヂカルフレンド社編集部[編]『日本の医療の行く手を読む』 メヂカルフレンド社	198610	【初出】医療' 86 2巻2号 (198602)
世界医事法学会とディアケンズ教授	日本医事法学会[編] 医事法学叢書第5巻『医療と生命』，日本評論社	198610	【初出】ジュリスト 804号 (198312)
医事法学会が「望みなき（？）患者の治療」を論ずることの意味と方法	上掲書所収	198610	【初出】法律時報 44巻13号 (197211)
〈社会と法〉からみた脳死	財団法人日本学術協力財団「脳死をめぐる諸問題」編集委員会[編] 『脳死をめぐる諸問題—日本学術会議第100回総会における記録等』（日学双書 I），日本学術協力財団	198611	医療技術と人間の生命特別委員会におけるヒヤリング（昭和61年3月24日）
ひろし 洋の風景—我妻洋一周忌によせて	書斎の窓 359号	198611	【転載】『我妻栄先生の人と足跡—年齢別業績経歴一覧表』の栞，信山社 (199310)

■1987年（昭和62年）

『医の倫理』 （講座 21世紀へ向けての医学と医療 第1巻）	森亘〔編集代表〕 日本評論社	198703	【編著者】 1984年にはじまる全10班 の共同研究成果の集積が 全11巻から成る「講座」 としてまとめられるが、 本書はその第1回配本に 当る。
「医の倫理」と「バイオエシックス」との間— 本書が論じたこと、果たせなかった課題	上掲書所収	198703	本稿の英訳は後出 （198799）
アメリカにおける社会的合意の探究と形成—い わゆる大統領委員会の構造と役割	上掲書所収	198703	
あとがき	上掲書所収	198703	
『時は過ぎる』	有斐閣出版サービス(株) 発行	198703	【著書】 増補改題して『死ひと つ』（信山社出版 （198809））となる
あの北尾=小錦戦	『随想』（日本加除出版 創立45周年記念） 日本加除出版	198703	
医師と患者	『第22回日本医学会総会 学術講演要旨』	198704	シンポジウム「医療と法 律」（昭和62年4月4日） 【発言者】加藤一郎・北 濱睦夫（司会）、唄孝一、 小山善之、森島昭夫、松 倉豊治、竹中浩治
臨床治験における倫理—Informed Consent	上掲書所収	198704	
バイオテクノロジーの進歩と医の倫理	高久史麿〔編〕『バイオテ クノロジーと医療』 東京大学出版会	198706	難病医学研究財団 シン ポジウム「バイオテクノ ロジーの進歩と医療の将 来」（昭和61年3月） 【出席者】大井玄、唄孝 一、加藤一郎、渡辺格
〈総合討論〉	上掲書所収	198706	【発言者】高久史麿、榊 佳之、渡辺格、染谷四 郎、近藤宗平、渥美和 彦、久保田競、稲田献 一、川喜田愛郎、松永 英、中川米造、唄孝一
In Japan, Consensus Has Limits	The Hastings Center Report, Vol. 17, No. 3	198706	【共同執筆著者】白井泰 子、石井美智子

今, なぜ Quality of life というのか	メディカル・ヒューマニティ 7号 (特集・QUALITY OF LIFEを考える, 砂原茂一[編]), 蒼穹社	198707	
〈講演〉臨床試験における倫理	『生存科学研究所シンポジウム「医薬品の開発と行政および倫理」』	198707	【講演録】
人為による懐胎・出産と法と倫理	『(財)庭野平和財団昭和61年度研究・活動助成研究報告書』	198708	【研究・執筆者】 唄孝一 【研究協力者】 石川稔, 三木妙子, 岩志和一郎, 高橋朋子
21世紀の医療 医療倫理 医療過誤を防ぐために	メディカルニュース 293号 (大日本製薬(株)発行)	198710	
医事法学の立場からみた臨床治験の倫理	『第22回日本医学会総会会誌』	198711	
医療と法律 医師と患者	上掲誌所収	198711	
医薬品の臨床試験と倫理 (医と法と倫理・1)	法律時報 59巻12号 (特集・医療技術と法と倫理)	198711	
Medical Ethics and Bioethics	<i>in</i> W. Mori and S. Homma (eds), MEDICAL SCIENCE AND HEALTH CARE IN THE COMING CENTURY - A REPORT FROM JAPAN, Elsevier Science Ltd.	198712	本稿の初出邦文論稿は前出 (198703)
地域における腎疾患管理システム——一般社会と法の立場から	日本腎臓学会誌 29巻12号	198712	
The Transferability of Systems of Ethics Review	<i>in</i> TOWARDS AN INTERNATIONAL ETHIC FOR RESEARCH WITH HUMAN BEINGS : PROCEEDINGS, by the Medical Research Council of Canada (1987)	19 [87] } 19 [88]	カナダ医学研究協議会 (MRC) 及びカナダ連邦保健省の後援のもとに1987年4月5日から10日までオタワで開催された第4回バイオエシックス国際サミット会議におけるディスカッション・ペーパー
■1988年 (昭和63年)			
医学・医療と人文学・社会科学との架橋——McGill大学における2つのところみ (医と法と倫理・2)	法律時報 60巻2号	198802	【再録】 北里大学医学部医学原論研究部門 [編] 『医学部・大学病院の新しい充実を求めて 北里大学医学部20周年記念シンポジウム』 (199207)

医学原論の方向を模索—医学と人文・社会科学を繋ぎ北里の個性を探る	医学部ニューズ104号 (北里大学医学部)	198802	
〈シンポジウム〉生命倫理の現実的課題—人類の未来と生命倫理 (第5セッション総括討論)	『生命倫理に関する一般理論の構築と方法論の開発に関する基礎研究 (58124043) 及び (61300018) 昭和58年度文部省科学研究費補助金特定研究 (1) 及び昭和61年度文部省科学研究費補助金総合研究A 昭和62年度文部省科学研究費補助金総合研究A 研究成果報告書 研究代表者坂本百大』	198803	【ディスカッサント】坂本百大 (総合司会者), 沢田允茂, 唄孝一, 加藤尚武, 藤本隆志, 村松正実, 古川俊之, 辛島恵美子, 森岡正博, 青木清
〈対談〉脳死問題と日本医師会生命倫理想談会最終報告書〔含・資料〕	法律時報 60巻3号	198803	加藤一郎
死—〔死をめぐる法律問題〕	『世界大百科事典』第12巻, 平凡社	198803	【共同執筆】星野澄子
生命科学—〔生命科学と生命倫理〕	『世界大百科事典』第15巻, 平凡社	198803	
〈シンポジウム〉老人の財産管理—紛争の予防・実態・解決	日本家族〈社会と法〉学会〔編〕『老人の財産管理—紛争の予防・実態・解決』, 家族〈社会と法〉No. 4 (1988) 日本加除出版	198803	第4回学術大会 (昭和62年11月8日) 【討論参加者】磯野誠一・唄孝一 (司会), 川上泉, 山本茂夫, 萩原金美, 寺戸由紀子, 及川伸, 村重慶一, 逸見武光, 植松正, 直井道子, 本城武雄, 藤本和男, 竹下史郎, 家崎宏, 加藤一郎, 外村隆, 谷口知平, 鈴木ハツヨ, 石川稔, 橋本宏子, 須永醇, 島津一郎
『臓器移植と脳死の法的研究—イギリスの25年』	岩波書店	198804	【著書】
続・続・イギリスにおける臓器移植の法的状況 (全3回)			
(1) 最近事情を速報する (医と法と倫理・3)	法律時報 60巻5号	198804	
(2) 臓器供給改善のための勧告 (医と法と倫理・4)	法律時報 60巻6号	198805	
(3) 新生児の臓器移植と無脳児の問題 (医と法と倫理・5)	法律時報 60巻7号	198806	

〈講演〉臨床試験における倫理	診断と治療 76巻6号	198806	生存科学研究所シンポジウム（昭和62年7月31日）
インフォームド・コンセントの心と形	病院 47巻7号 （特集・インフォームド・コンセント）	198807	
〈コラム〉「氏」二題	比較家族史学会〔監〕，黒木三郎・村武精一・瀬野精一郎〔編〕『家の名・族の名・人の名―氏』（シリーズ家族史 3）三省堂	198809	
『死ひとつ』	信山社	198809	【著書】 『時は過ぎる』（198703）の増補改題
『生命倫理―先端医療をめぐる諸問題について認識を深める』	日本看護協会出版会	198810	【共著者】川喜田愛郎，唄孝一，大森文子，中島みち
医療と法と倫理	上掲書所収	198810	日本看護協会中央研修講義「生命倫理」（1988年2月29日）に加筆訂正したもの
脳死論の論理―日医「最終報告書」批判	世界 520号	198810	
日本医事法学会―医療の実態から出発し法律のあり方を考える（医学会のルーツを訪ねて・最終回）	MRM（医療経営管理専門誌）26号（メディカル・リスク・マネジメント（株））	198811	
〈NEWS AND VIEWS〉Proposed Japanese guidelines on clinical trials of new pharmaceutical products	International Digest of Health Legislation 39 (4) WHO Publication	198899	
バイオ法研究への課題	「バイオ法研究会」創立総会，民事法情報センター	198899	
■1989年（昭和64年・平成元年）			
二つの「症例報告」を聞いて―第12回「死の臨床研究会」所感	北里大学病院ニュース 195号	198902	
医事法学と社会―死の判定をめぐる	碧海純一・大熊由紀子・加藤一郎〔編〕『科学は人間を幸福にするか』勁草書房	198903	文部省科学研究費助成による研究会「科学と社会に関する諸問題」の1982年2月12日の研究報告にもとづく稿

「倫理委員会」考			
1	日本の大学医学部・医科大学倫理委員会 (医と法と倫理・6)	法律時報 61巻5号	198904
2	カレン事件と倫理委員会 (医と法と倫理・7)	法律時報 61巻6号	198905
『医療過誤判例百選』		別冊ジュリスト 102号	198906 【共編者】宇都木伸，平林勝政
「医事判例百選」から「医療過誤判例百選」へ		上掲書所収	198906
『脳死を学ぶ』		日本評論社	198906 【著作集】
死をめぐる法理と倫理	日野原重明・山本俊一 [編]『死生学・ Thanatology—生の終焉 を如何に迎えるか』(第 二集)，技術出版	198906	
臓器移植と法律	木本誠二・和田達雄[監] 出月康夫ほか[編]『臓器 移植』(新外科学大系12) 中山書店	198906	
〈討論〉在宅医療・再論	日本医事法学会[編]『年 報医事法学 4』 日本評論社	198907	第18回日本医事法学会総 会 シンポジウム 【発言者】木下安子(司 会)，佐藤智，古和久幸， 西三郎，阿部薫，宍戸輝 男，永井友二郎，塚本泰 司，小川政亮，平林勝 政，加藤良夫，白井泰 子，草刈淳子，高木武， 大嶋一泰，唄孝一
カレン事件以後のアメリカ	望星 20巻9号 (特集・生命の尊厳—死 をみつめることから) (東海教育研究所)	198909	東海大学医療技術短期大 学建学15周年記念誌上シ ンポジウム
〈鼎談〉末期医療の在るべき姿を求めて	ジュリスト 945号 (特集・末期医療と患者 の人権)	198911	【出席者】唄孝一(司 会)，田中英夫，森岡恭 彦
病床体験の重さ	『内田義彦著作集』(第 10巻)月報10号，岩波書 店	198911	
臓器摘出における承諾のあり方(臓器移植と脳死)	Clinical Neuroscience 別冊 7巻12号，中外医学 社	198912	

■1990年（平成2年）

〈講演〉	『「説明と同意」についての講演・質疑速記録集』 日本医師会生命倫理懇談会	199001	
〈講演〉家族と医療—個の再生産と種の再生産			
(1) 家族モデルと医療モデル 家族と医療との共存と交錯	ケース研究 222号	199002	第35回全国家事調停委員懇談会（平成元年10月5日）における講演速記録を一部修正したもの
(2) 家族と医療との相互介入／出生と死亡における家族と医療／死亡の際の具体的なケース	ケース研究 225号	199011	
In the Matter of John Storar; Soper v. Storar; Eichner v. Dillon, 420 N.E.2d 64 (N.Y. 1981) —治療打ち切りの要請に対しニュー・ヨーク州が事案も法理も結論も異なる2つの判決を組み合わせで発表した事例	アメリカ法 1989-2	199002	
In the Matter of Claire C. Conroy, 486 A.2d 1209 (N.J. 1985) —心身の病が重篤で余命も限られている寝たきりのナーシング・ホーム在住患者から鼻腔栄養のためのチューブを取外しうるか	アメリカ法 1989-2	199002	
〈こころ〉インフォームド・コンセント／唄孝一さんと読者が考える	朝日新聞 1990年4月23日	199004	
医の倫理	森亘・本間三郎[編]『21世紀へ向けての医学と医療』（講座 21世紀へ向けての医学と医療 第11巻） 日本評論社	199005	第11巻は1984年に発足した文部省科研費による左記特定研究成果の総体としての報告
墓地の基本理念と墓地使用の態様 （「家族と法」研究レポート 23）	判例タイムズ 722号	199005	
The Definition of Death: The Japanese Attitude and Experience	Transplantation Proceedings, Vol. 22, No. 3	199006	
日本医事法学会が「精神医療」を論ずることの意味と方法	日本医事法学会[編]『年報医事法学 5』 日本評論社	199007	日本医事法学会第19回総会 シンポジウム「精神医療における患者—治療者関係」での報告

〈討論〉精神医療における患者－治療者関係	上掲書所収	199007	上掲シンポジウム 【発言者】荻原隆二（司会）、渡辺哲夫、新美育文、加藤良夫、中谷瑾子、逸見武光、守屋裕文、金川琢雄、斉藤豊治、安藤晴延、西三郎、ト部圭司、光石忠敬、桑原昌宏、丸山英二、町野朔、熊倉伸宏、秋元波留夫、唄孝一
「医学概論」講義を始めて／医療現場の問題が教材／学生は感想・意見を出す	医学部ニュース 128号 （北里大学医学部）	199007	
臓器移植・脳死における意思の役割	メディカル・ヒューマニティ 17号（特集・インフォームド・コンセント、星野一正[編]）、蒼穹社	199007	
「とんでもない誤解」	ふれあい 6号 （（財）世田谷ふれあい公社）	199008	
〈インタビュー〉承諾のあり方、尊厳死・QOLへの疑問	日経メディカル 1990年8月10日号	199008	川口達也（聞き手）
医事法学者と生命倫理・二題（医と法と倫理・6*）	法律時報 62巻9号	199008	*8の誤りか 【再録】北里大学医学部医学原論研究部門[編]『医学部・大学病院の新しい充実を求めて 北里大学医学部20周年記念シンポジウム』（199207）
〈特別発言〉	小柴健・柿田章[編] 『臓器移植の20年と今後の展望』（北里大学医学部創立20周年記念シンポジウム）、北里大学医学部	199009	
お祝いのことば	法の苑 1990・秋（19号） （日本加除出版）	199010	高野耕一『財産分与・家事調停の道』に第2回尾中郁夫・家族法學術賞が贈呈された（平成2年5月28日）際の祝詞
患者の「知る権利」と医師の説明義務	医の統合を語る会[編] 『医療と社会（医の統合V）』、日本医事新報社	199010	

〈総合自由討論〉 1 終末期 2 医療資源 3 ICU 4 エピローグ	大学医学部医科大学倫理 委員会連絡懇談会[監] 星野一正・斎藤隆雄[編] 『21世紀への生命倫理と 医療経済』(国際バイオ エシックス・シンポジウ ム・シリーズ 1) 蒼穹社	199010	1990年1月7日開催 【シンポジスト】植村研 一(司会), H・T・エン ゲルハルト, M・A・リー, 中谷瑾子, 星野一正, 唄 孝一, 佐野豊, 西村周 三, 斎藤隆雄, 江見康 一, 遠藤實
『生命維持治療の法理と倫理』	有斐閣	199011	【著作集】
〈講演〉被験者の人権保護	『GCPの理解のために 厚生省説明会講演内容を 中心として』, (株) ミク ス	199011	医薬品の臨床試験の実施 に関する基準説明会(平 成2年8月22日, 31日)に おける講演要旨
■1991年(平成3年)			
〈総合討論〉脳死と臓器移植をめぐる	大学医学部医科大学倫理 委員会連絡懇談会[監] 星野一正・斎藤隆雄[編] 『脳死と臓器移植』(国際 バイオエシックス・シン ポジウム・シリーズ 2) 蒼穹社	199101	1990年5月19日開催 【シンポジスト】植村研 一(司会), ウイリアム・ F・メイ, バーナード・ M・ディケンズ, 星野一 正, 唄孝一, 森崇英, 増 山善明, 斎藤隆雄
インフォームド・コンセントを統一テーマと することについて	日本医事法学会会報 46号	199101	
脳死・臓器移植の法的問題点	臨時脳死及び臓器移植調 査会審議だより 3号	199102	
HIV疫学調査推進のためのプライバシー保護 および倫理に関する研究	『HIV疫学研究班 HIVの 疫学と対策に関する研究 平成2年度研究報告書』, 『同 平成4年度研究報告 書』, 『同 5年度研究報 告書』(主任研究者: 重 松逸造), HIV疫学研究班	199103 199303 199403	【共著者】西三郎, 南谷 幹夫, 平林勝政, 唄孝一
検体摘出の倫理と予防医学	『予防医学の倫理問題に 関する研究(研究課題 番号63304040) 昭和63 年~平成2年度科学研究 費補助金(総合A) 研究 成果報告書』	199103	【研究組織】山本俊一 (研究代表者), 稲葉裕, 佐藤智, 唄孝一, 旗野脩 一, 安西定, 河内卓, 清 水弘之, 田島和雄, 行天 良雄, 菊地正悟
老人の財産に関する法律行為の研究	『厚生省厚生科学研究費 補助金 長寿科学総合研 究 平成2年度研究報告 Vol. 3 社会科学 90A5102』, 長寿科学総合 研究費中央事務局	199103	【分担研究】石川稔(代 表), 唄孝一, 平林勝政, 岩志和一郎, 三木妙子, 田山輝明, 南方晄, 竹下 史郎
生命倫理と法	『第23回日本医学会総会 学術講演要旨』	199104	(平成3年4月5日)

〈DI Topics〉G C Pにおける被験者の人権保護	月刊カレントセラピー別冊 9巻4号	199104	ラジオたんぱ「スズケンDIアワー」平成2年12月13日放送より
医と法との出あい（医と法の対話）	法学教室 127号	199104	
くすりの開発と人権	毎日ライフ 7月号 （特集・今日のくすりー薬品の諸相を今日的視点から捉え直す）	199106	
東大における「医事法制講義」事始めを中心として—山崎佐先生との“雅談”など	日本医事法学会[編]『年報医事法学 6』日本評論社	199107	第20回日本医事法学会総会 シンポジウム「医学教育における医事法の位置」をめぐる医事法教育経験者の報告
〈討論〉医学教育における医事法の位置	上掲書所収	199107	上掲シンポジウム 【発言者】高島学司（司会）、塚本泰司、加藤久雄、高木武、金川琢雄、中谷瑾子、唄孝一、山田卓生、原三郎、柳田純一、山上賢一、加藤良夫、佐藤暢、杉田聡、福岡誠之、白井泰子、菅野耕毅、塚田敬義
長い静思と論議は熟したか／倫理委員会規程原案成る／公開フォーラムで活発な質疑応答	医学部ニュース 138号（北里大学医学部）	199107	
〈講演〉医療技術の発展と法	公法研究 53号	199110	第55回日本公法学会総会（平成2年10月6日）講演速記録に多少の添削をほどこしたもの
倫理委員会の「あり方」を求めて／第6回大学医学部・医科大学倫理委員会連絡懇談会報告	医学部ニュース 141号（北里大学医学部）	199111	
序論、総括・まとめ2—医事法の側面から（人工生殖の比較法的研究）	比較法研究 53号	199112	比較法学会第54回総会第2日（1991年6月30日）における研究報告
Symposium : A Comparative Legal Study of Artificial Reproduction—General Remarks	比較法研究 53号	199112	上掲論稿の英文抄録
■1992年（平成4年）			
〈余白を語る〉「医学」と「患者」の距離 どう克服	朝日新聞 1992年1月24日夕刊	199201	（文 大川節夫）
患者に対する説明と同意	日本成人病学会会誌 18巻	199201	第26回日本成人病学会プログラム・抄録集

《講演》 生命倫理と法	第23回日本医学会総会記録委員会委員長 小川和朗[編]『第23回日本医学会総会 総会誌 II』	199202	1991年4月5日～7日に京都で開催された第23回日本医学会総会における特別講演(演題コード: 7-SL-1) 北川善太郎(座長)
医学教育における医事法の位置	『平成2年度 医学教育研究助成成果報告書』 医学教育振興財団	199203	【研究組織】 唄孝一(研究代表者), 原三郎, 福岡誠之, 金川琢雄, 菅野耕毅, 山上賢一, 塚本泰司, 東海林邦彦, 杉田聡
《講演》 インフォームド・コンセント	『第12回日本脳神経外科コンgres講演録』	199204	本講演は1992年4月25日行われた
《Ethics》 Characteristics of Ethics Committees of Japanese Medical Schools	Medicine and Law Vol.11, No.5/6 International Centre of Medicine and Law	199205	
《特別講演》 患者に対する説明と同意	臨床成人病 22巻5号	199205	第26回日本成人病学会(平成4年1月15日)
第6回全国連絡懇談会を終えて	倫理委員会ニュース 1号 (北里大学医学部・病院倫理委員会)	199205	
『内縁ないし婚姻予約の判例法研究』 (唄孝一・家族法著作選集 第3巻)	日本評論社	199207	【著作集】
ニュー・ジャージーのころみと体験 (全6回)			*表記上の7～10(正しくは9～12)の4回に相当する分は本目録に収録されていない。それは以下の4名の論者の論稿に割り振られたからである。 E.W. カイザリンク(医と法と倫理・7) 法律時報63巻2号 A.M. ケイブロン(医と法と倫理・8) 法律時報63巻4号 J.C. フレッチャー(医と法と倫理・9) 法律時報63巻5号 川喜田愛郎(医と法と倫理・10) 法律時報63巻6号 彼らはいずれも後掲記念シンポジウムに招聘されたスピーカーであり, その論稿は『医学部・大学病院の新しい充実を求めて』に再録されている。
(1) (医と法と倫理・11*)	法律時報 64巻8号	199207	
(2) (医と法と倫理・12)	法律時報 67巻11号	199510	
(3) (医と法と倫理・13)	法律時報 67巻12号	199511	
(4) (医と法と倫理・14)	法律時報 68巻1号	199601	
(5) (医と法と倫理・15)	法律時報 68巻2号	199602	
(6) (医と法と倫理・16)	法律時報 68巻3号	199603	
患者自己決定法(合衆国連邦法)の虚と実(序説) — 「ニュー・ジャージーのころみと体験」の付録として(医と法と倫理・17)	法律時報 68巻4号	199604	

刊行のことは	北里大学医学部医学原論 研究部門〔編〕 『医学部・大学病院の新 しい充実を求めて 北里 大学医学部20周年記念シ ンポジウム』, 発売 信山 社販売	199207	
〔北里大学の医学概論講義についてのコメント〕	上掲書所収	199207	第3回バイオエシックス シンポジウム (1990年7 月25日) におけるエド ワード・W・カイザリン ク教授の講演「医学生に 対し医の倫理および保健 法を教えること」をめぐ る質疑応答 (英文併録)
医事法学者と生命倫理・二題	上掲書所収	199207	【初出】法律時報 62巻9 号 (199008)
医学・医療と人文学・社会科学との架橋— McGill大学における2つのこころみ	上掲書所収	199207	【初出】法律時報 60巻2 号 (198802)
「健康権」についての一試論	社会保障研究所〔編〕 『医療』(リーディング ス日本の社会保障 2) 有斐閣	199209	【初出】公衆衛生 37巻1 号 (197301)
『氏の変更』 (唄孝一・家族法著作選集 第2巻)	日本評論社	199209	【著作集】
〈対談・先端医療と生命〉倫理委員会の現状と 今後の課題	メディカルニュース 326 号	199210	斎藤隆雄 (聞き手)
インフォームド・コンセントと透析医療	臨床透析 8巻11号 (特集・透析におけるイ ンフォームド・コンセ ント)	199210	
再び「生きる権利・死ぬ権利」について—ア メリカの裁判例を通して考える	学士会会報 797号	199210	
『戦後改革と家族法 家・氏・戸籍』 (唄孝一・家族法著作選集 第1巻)	日本評論社	199211	【著作集】
〈座談会〉川島法学の軌跡	ジュリスト 1013号 (特集・川島法学の軌 跡)	199212	【出席者】太田知行, 甲 斐道太郎, 田中成明, 唄 孝一, 平井宜雄 (司会)
■1993年 (平成5年)			
『戦後社会における家族の諸相』 (唄孝一・家族法著作選集 第4巻)	日本評論社	199303	【著作集】

老人の財産に関する法律行為の研究	『厚生省厚生科学研究費補助金 長寿科学総合研究 平成4年度研究報告 Vol.6 社会科学 90A5102』, 長寿科学総合研究費中央事務局	199303	【分担研究】石川稔(代表), 唄孝一, 宇都木伸, 岩志和一郎, 三木妙子, 田山輝明, 南方暁, 竹下史郎
川島法学一発進の一断面	日本法社会学会学会報 33号	199304	
涙滂沱として	辻清明追想集刊行委員会 [編]『回想辻清明』 中央公論事業出版	199305	
倫理委員会の一年を振り返る	医学部ニューズ 157号 (北里大学医学部)	199306	
再論の目的と方法	日本医事法学会[編]『年報医事法学 8』 日本評論社	199309	第22回日本医事法学会総会 シンポジウム「インフォームド・コンセント《再論》」
〈総合討論〉インフォームド・コンセント《再論》	上掲書所収	199309	上掲シンポジウム 【発言者】唄孝一(司会), 浦川道太郎, 甲斐克則, 鈴木利広, 塚本泰司, 清水洋二, 山下登, 丸山英二, 光石忠敬, 宇都木伸, 宮地尚子, 尾久裕紀, 飯塚和之, 福岡誠之, 宇田憲司, 西三郎, 平林勝政, 小笠豊, 樋口範雄, 白井泰子, 加藤良夫, 富田清美
法律家からみた問題点—臨床の先生方に考えていただきたいこと	日本学術会議: 泌尿生殖医学研究連絡委員会[編]『生殖医療技術の進歩と生命倫理』, メジカルビュー社	199309	
『我妻栄先生の人と足跡—年齢別業績経歴一覧表』	信山社	199310	【共編者】我妻洋
一所けんめいの生涯	上掲書葉	199310	【初出】 [1]図書 292号(197312) [2]『追想の我妻栄 陰しく遠い道』, 一粒社(197410)
我妻先生と法学概論	上掲書葉	199310	【初出】我妻栄『法学概論』(法律学全集第55回配本)のしおり, 有斐閣(197406)

ひろし 洋の風景—我妻洋一周忌によせて	上掲書葉	199310	【初出】書齋の窓 359号 (198611)
「婦人問題研究会」から「末期医療のあるべき姿」まで	『田中英夫追想文集』 発行者 田中和か子 制作 有斐閣出版サービス (株)	199310	
〈講演〉インフォームド・コンセント	麻酔 42巻10号 号外	199310	第40回日本麻酔学会総会 シンポジウム「手術・麻酔をめぐる医師患者関係—インフォームド・コンセントを中心として」 (平成5年4月23日) 【出席者】斎藤隆雄 (司会), 唄孝一, 久保田行男, 斎藤和好, 加藤良夫, 高橋敬蔵
医事法学者は医療のために何ができるか—医事法学から医学原論を	ジュリスト 1033号	199311	学士院賞受賞記念講演 (1992年9月11日) の速記録を多少修正し注を付したもの
■1994年 (平成6年)			
インフォームド・コンセントと医事法学	『第1回日本医学会特別シンポジウム「医と法」』 日本医学会	199402	
「フォーラム 医事法学」のすすめ	宇都木伸・平林勝政[編] 『フォーラム医事法学』 尚学社	199403	
生命維持治療の放棄をめぐる自己決定と代行	『患者中心の医療をめぐる学際的研究 (報告論文集) 研究課題番号 03305012 平成3・4・5年度科学研究補助金 (総合 A) 研究成果報告書 研究代表者 星野一正』	199403	【研究組織】星野一正 (研究代表者), 青木清, 江見康一, 片田範子, 木村利人, 桑木務, 中谷瑾子, 唄孝一, 福岡誠之, 藤井正雄
〈こころ〉植物状態と尊厳死—多義的で無定形な概念／なお必要な濃密討議	朝日新聞 平成6年3月29日夕刊	199403	日本学術会議医学系の研究連絡委員会主催による 3月3日開催のシンポジウム「植物状態と尊厳死」 をめぐるコメント
朝の病院・夕の病院	北里大学病院ニュース 257号	199405	

あの時代の、あの演習	「川島武宜先生を偲ぶ」 編集委員会[編]『川島武 宜先生を偲ぶ』 (財)クレイム研究会 発行 日本評論社 製作	199406	
鴻鵠いずくんぞ燕雀の志を知らんや	上掲書所収	199406	【初出】法学セミナー 184号 (197105)
〈私のひと言〉気になる「尊厳死」／「生きる 権利」の議論を	沖縄タイムス 平成6年7月11日夕刊	199407	1994年5月26日日本学術 会議総会が承認・公表し た「尊厳死について」の 報告書をめぐる〈私のひ と言〉が、左記以外にも 共同通信を通じ河北新 報・四国新聞（いずれも 11日）、信濃毎日（17日） 等に掲載されている。
「尊厳死」論議に加えたい視点	生命の科学 3巻8号 (特集・尊厳死 生と死 の原点を見つめる)	199408	
「α 期間」の前後（フロアーからの発言より）	日本法哲学会[編] 『生と死の法理』, 法哲 学年報 (1993), 有斐閣	199410	1993年度日本法哲学会第 2日 (11月14日) シンポ ジウム第3部統一テーマ 「生と死の問題に接近す るための基礎理論」への [コメント]
若き臨床医へのラブコール	北里大学医学部同窓会会 報 12号	199410	
〈書評〉黒柳弥寿雄[著]『尊厳死を考える』／ 臨床例に漂う著者の想い	中日新聞 平成6年10月2日	199410	
〈巻頭言〉家裁よ何処へ	ケース研究 241号	199411	
〈随想〉選択的夫婦別氏制のあり方	ジュリスト 1057号	199412	
■1995年（平成7年）			
〈座談会〉「尊厳死」議論の光と影—植物状態 を中心として	ジュリスト 1061号 (特集・尊厳死)	199502	【出席者】大嶋一泰, 大 谷實, 紙屋克子, 神野哲 夫, 唄孝一 (司会)
『家族と医療 その法学的考察』	弘文堂	199502	【共編著者】石川稔
家族と医療・序説一個の再生産と種の再生産	上掲書所収	199502	
いわゆる「東海大学安楽死判決」における「末 期医療と法」（横浜地裁平成7年3月28日判決を 読んで）	法律時報 67巻7号	199506	

医事法	『ブリタニカ国際大百科事典』 第2巻, ティビーエス・ブリタニカ社	199507	
〈座談会〉安楽死—東海大学事件をめぐって	ジュリスト 1072号 (特集②・東海大学安楽死判決)	199507	【出席者】内藤謙, 唄孝一 (司会), 柳田 邦男, 山崎章郎
家庭事件記録と「家事資料研究会」	ジュリスト 1078号 (特集・判決原本保存・利用とプライバシー)	199511	
■1996年 (平成8年)			
『エイズ対策の法制のあり方等に関する研究 平成7年度厚生科学研究費補助金 「エイズ対策 研究推進事業」 研究報告書』		199603	【研究組織】唄孝一 (研究代表者), 磯部力, 宇都木伸, 平林勝政, 町野朔, 丸山英二
総合研究報告	上掲書所収	199603	
〈学説回顧〉家族法研究・到らざりしの記	比較家族史研究 10号 (弘文堂)	199603	第88回家族と法研究会 (1993年4月17日) における研究報告「仰ぎ見た峯々, たどり得ざりし路々—拙き家族法研究を顧みる」を基とし, 加筆修正したもの
遺伝子治療の臨床研究等について思う	加藤一郎・高久史磨[編] 『遺伝子をめぐる諸問題—倫理的・法的・社会的側面から』, 日本評論社	199604	
医療の中の法と倫理—東海大学安楽死事件の判決を踏まえて	日本女医会誌 復刊146号	199604	平成7年度講演研修会 (平成7年11月25日)
乙羽信子さんの死と「家族」—新藤兼人著「午後の遺言状」「愛妻記」を読んで	委員会ニュース 10号 (北里大学医学部・病院倫理委員会)	199605	
〈巻頭言〉再び「家族と医療」について	日本生命倫理学会ニューズレター 11号	199609	
戦後家族法の課題と現状—唄孝一先生を囲んで	こもれび 21号 (民主主義科学者協会法律部会関東甲信越支部ニュース)	199609	1995年度 第2回研究会「戦後50年と法律学の課題Part II」(9月30日) における記録記事 (文責 松本克美)
〈Talks〉患者さんの意思決定を支援する「薬」の情報提供者であってほしい	Current Concepts in Hospital Pharmacy (病院薬局—今日の考え方) 12巻3号 ((株) スタンダード・マッキンタイヤ)	199609	

〈討論〉在宅ケアにおけるリビング・ウィルの役割（唄追記―「家族と医療」について）	坂上正道・佐藤智〔編〕 『在宅ケアとリビング・ウィル』，日本評論社	199610	在宅医療を推進する医師の会主催シンポジウム「在宅ケアにおける生命倫理―リビング・ウィルの役割」（1995年12月2日） 【発言者】唄孝一，滝島幸子，黒川紀子，佐藤智，紀伊國猷三（司会）
『医療過誤判例百選』（第2版）	別冊ジュリスト 140	199612	【共編者】宇都木伸，平林勝政
医療過誤判例百選（第2版）の編集方針	上掲誌所収	199612	【共同執筆者】宇都木伸，平林勝政
「医事判例百選」から「医療過誤判例百選」へ―第1版はしがき	上掲誌所収	199612	
■1997年（平成9年）			
川喜田愛郎先生の御逝去を悼む	倫理委員会ニュース 12号（北里大学医学部・病院倫理委員会）	199701	
お祝いのことば	法の苑 1997・春（30号）（日本加除出版）	199702	石川稔『家族法における子どもの権利―その生成と展開』に第8回尾中郁夫・家族法學術賞が贈呈された（平成8年5月28日）際の祝詞
医療と法	井村裕夫・福井次矢〔編〕 『医者と患者（最新内科学大系1）』，中山書店	199702	
〈招待講演〉医事法学者は医療のために何ができるか	交通医学 51巻1・2号	199703	第51回日本交通医学会総会
〈巻頭言〉氏名のあるがん，わたしたちのがん	季刊養育院 780号（東京都養育院管理部企画課）	199703	
『フォーラム医事法学』のすすめ	宇都木伸・平林勝政〔編〕 『フォーラム医事法学』（追補版），尚学社	199704	
川島法学―発進と転回の「奇跡」	日本法社会学会創立50周年記念事業実行委員会〔編〕『法社会学への出発』	199705	
我妻緑さまを偲んで	松野良寅〔編〕 『我妻栄一人と時代』（我妻栄先生生誕百年記念誌），印刷（株）ぎょうせい	199708	

脳死議論は決着したか—臓器移植法の成立	法律時報 69巻10号	199709	
〈座談会〉臓器移植法をめぐって	ジュリスト 1121号 (特集・臓器移植法)	199710	【出席者】島崎修次, 中森喜彦, 野本亀久雄, 唄孝一, 町野朔(司会), 丸山英二
〔潮見君を偲ぶことば〕	渡辺洋三[編] 『潮見さんを偲ぶ会の記録』 発行者 潮見瑛子 制作協力 日本評論社	199710	1997年4月6日に開催された「偲ぶ会」におけるスピーチ
■1998年(平成10年)			
選択的夫婦別氏制—その前史と周辺 (全3回)			
第1回 戦後の家族法改正における「氏」氏と呼称	ジュリスト 1127号	199802	
第2回 氏と呼称(承前)／子の氏の変更	ジュリスト 1128号	199802	
第3回 「芽生え」と「みのり」(完) 何を選択するのか	ジュリスト 1129号	199803	
〈コンメンタール随想〉我妻栄記念館と展示文書のことども	『新版 コンメンタール契約法』(コンメンタール民法 5) 栞, 日本評論社	199804	
「臨床研究」に対する医事法学的接近	日本医事法学会[編] 『年報医事法学 13』 日本評論社	199808	第27回日本医事法学会総会 シンポジウム「臨床研究」
〈総合討論〉臨床研究	上掲書所収	199808	上掲シンポジウム 【発言者】宇都木伸(司会), 後藤克幸, 光石忠敬, 渡辺亨, 新美育文, 唄孝一, 加藤良夫, 宇田憲司, 浜島信之, 宮治真, 梶原麻佐路, 丸山英二(司会), 加藤久雄, 甲斐克則, 中谷瑾子, 岡島道夫, 山田卓生, 古川俊治, 鈴木利広, 黒川達夫, 中村好一
〈有識者の提言〉ふれあい公社に望まれる「複眼」	『住み続けたい街 世田谷』ふれあいサービス事業15周年記念誌(公社設立10周年記念誌), (財)世田谷ふれあい公社	199811	

■1999年（平成11年）

〈特別発言1〉治験について医プロフェッショナルに望む	日本消化器関連学会合同 会議DDW-Japan 1998運営 委員会[監], 山崎義生, 寺野彰[編]『臨床試験 (新GCP)をめぐる諸問 題』 学会センター関西	199902	
〈ジュリスト書評〉林屋礼二・石井紫郎・青山 善充[編]『図説 判決原本の遺産』	ジュリスト 1154号	199904	
〈講演〉「婚姻予約」そして「死亡」—法概念 とは何か	上智法学論集 43巻1号	199904	上智大学法学部特別講演 会（1998年12月15日）
『病理解剖をめぐる法的諸問題』一序説：病理 医の死後病理解剖に関して	日本病理学会総会特別シ ンポジウム（第88回）	199904	
〈法律時評〉移植術前カテーテル挿入問題と倫 理委員会	法律時報 71巻10号	199909	
塚本医師の医事法学	塚本泰司[著] 『医療と法 臨床医のみ た法規範』, 初版（1999 年10月）, 第2版（2000年 11月）, 尚学社	199910	
書斎から見た戸籍法（戦後）外史	戸籍法50周年記念論文集 編纂委員会[編]『現行戸 籍制度50年の歩みと展 望』, 日本加除出版	199910	
不法な術前措置と倫理委員会の立場	倫理委員会ニュース 19 号（北里大学医学部・病 院倫理委員会）	199911	

■2000年（平成12年）

〈Commentary〉Respecting Personhood	Echoes of Peace, Bulletin of the Niwano Peace Foundation, No. 58	200001	
〈基調講演〉「診療情報の提供」と「カルテ開 示」	人間の医学 35巻5号 （実地医家のための会）	200001	第400回「実地医家のた めの会」7月記念例会 「実地医家と医療情報」 （平成11年7月11日） 【出席者】神保勝一・松 村幸司（総合司会）, 大 熊由紀子, 唄孝一, 天野 一夫, 佐々木明, 中野 進, 前納宏章ほか

(新春歓談)	せたがや社協だより い きいき福祉 13号 (世田 谷区社会福祉協議会)	200001	【出席者】 唄孝一, 武田 治恵, 中根一男
〈特別寄稿〉 真性のインフォームド・コンセント を求めて—第2回HAB機能研セミナーに参加し て	『科学と個の尊厳 第2 回HAB機能研セミナー 手術組織に関する厚生省 答申の実施に向けて—あ るべき姿と問題点』, HAB 協議会霊長類機能研究所	200002	
『医療と法と倫理—資料文献目録』 (第1分冊・第2分冊 新版)	北里大学医学部医学原論 研究部門	200003	【編集】
人工生殖について思ってきたこと (IV. 生殖補助医療の進展の軌跡)	産婦人科の世界 52巻春 季増刊号 (Bioethics : 医学の進歩と医の倫理)	200003	「人工生殖について思っ てきたこと・再論」とし て, 家永登・上杉富之 [編]『生殖革命と親・ 子』(生殖技術と家族Ⅱ), 早稲田大学出版部(2008 年12月)に加筆のうえ再 録
〔来栖三郎先生を偲ぶ〕	清水誠・山田卓生[責任 編集]『来栖三郎先生を 偲ぶ—来栖三郎先生を偲 ぶ会の記録』, 信山社	200006	1999年11月14日開催され た「偲ぶ会」におけるス ピーチ, 及び「偲ぶひと こと集」への寄稿
私の研究—医事法学とその周辺	生存科学 11巻A (財) 生存科学研究所)	200006	
お祝いの言葉	戸籍時報 516号	200007	高橋朋子『近代家族団体 論の形成と展開』に第11 回尾中郁夫・家族法學術 奨励賞が贈呈された(平 成12年5月26日)際の祝 詞
■2001年 (平成13年)			
〈座談会〉 ヒト組織・細胞の取扱いと法・倫理	ジュリスト 1193号 (特集=ヒト組織・細胞 の取扱いと法)	200102	【出席者】 宇都木伸 (司 会), 迫田朋子, 恒松由 記子, 野本亀久雄, 唄孝 一, 増井徹, 松村外志張
ヒト由来物質の医学研究利用に関する問題			
(上) ①ヒト由来物質の分類と特徴 ②ヒト由来物質の扱いに関する問題状 況 ③ガイドラインの簇生	ジュリスト 1193号 (特集=ヒト組織・細胞 の取扱いと法)	200102	【共同執筆者】 唄孝一, 宇都木伸, 佐藤雄一郎
(下) ④インフォームド・コンセントと「モ ノ」 donation ⑤情報とプライバシーの問題 ⑥人間の尊厳性の保護	ジュリスト 1194号	200102	

〈巻頭言〉みまかりし諸先生をお偲びして	日本医事法学会[編] 『年報医事法学 16』 日本評論社	200107	
日本医事法学会30年の歩み—回顧と点検	上掲書所収	200107	
〈討論〉シンポジウムⅢ 医事法学会（界）30年の歩み	上掲書所収	200107	日本医事法学会第30回総会 【発言者】塚本泰司（司会）、木村利人、上林茂暢、宇都木伸、中村好一、我妻堯、唄孝一
〈討論〉シンポジウムⅠ～Ⅲを踏まえて医事法学会のあり方と役割を考える	上掲書所収	200107	上掲総会 【発言者】平林勝政・柳田純一・新美育文（司会）、大木桃代、白井泰子、鈴木利広、宇都木伸、増井徹、丸山英二、西三郎、甲斐克則、古川俊治、光石忠敬、浦川道太郎、吉田邦彦、塚田敬義、石井トク、高井裕之、永井友二郎、唄孝一、姉崎正平、福岡誠之、栗屋剛、山田卓生、原三郎、木村利人、菅野耕毅、寺野彰、黒須三恵、岡嶋道夫
患者の権利—正しいインフォームド・コンセントとは	人権のひろば 21号 （（財）人権擁護協会）	200109	
Q君への手紙—隣接領域からの期待	日本社会保障法学会[編] 『講座社会保障法』（全6巻）の推薦文、法律文化社	200110	
生命維持装置をめぐる倫理と法	慈大新聞 平成13年11月25日 （東京慈恵会医科大学同窓会）	200111	第118回成医会総会 シンポジウム「先端医療及び研究における倫理的、法的問題」（平成13年11月11日） 【出席者】衛藤義勝・高津光洋（座長）、宇澤弘文、松藤千弥、落合和徳、唄孝一
■2002年（平成14年）			
〈座談会〉21世紀の家族法—学説・実務の行方	判例タイムズ 1073号	200201	【出席者】唄孝一、若林昌子、梶村太市（司会）、松原正明、水野紀子、大村敦志、道垣内弘人

インフォームド・コンセント	市野川容孝[編] 『生命倫理とは何か』 平凡社	200208	
〈随想〉我妻＝遠藤＝同人会	清水暁ほか[編] 『現代民法学の理論と課題』(遠藤浩先生傘寿記念), 第一法規出版	200209	
生命維持治療の打ち切りをめぐる家族と司法—フィオリ事件判決(アメリカ)の研究ノートから	佐藤進・齋藤修[編] 『現代民事法学の理論』(西原道雄先生古稀記念下巻), 信山社	200210	
■2003年(平成15年)			
我妻栄先生の文書・記念館のことなど	記念随想集刊行会[編] 『尾中哲夫 社長就任15年と古稀祝賀 記念随想集』, 日本加除出版	200303	
〈シンポジウム〉生命科学の発展と私法—生命倫理法案	私法 65号	200304	日本私法学会第66回大会 民法部会シンポジウム (2002年10月13日) 【討論参加者】川井健・三木妙子(司会), 本山敦, 棚村政行, 床谷文雄, 石井美智子, 野村豊弘, 我妻堯, 棚島次郎, 春日偉知郎, 島齒進, 山田卓生, 加賀山茂, 東海林邦彦, 牧山康志, 塚田敬義, 松本克美, 米村滋人, 唄孝一, 渡邊泰彦, 谷上健次, 堀口悦子, 佐藤康史, 手塚宣夫, 川嶋妙, 緒方直人, 二宮周平, 斉藤武, 貞岡美伸, 松尾智子, 岡林伸幸, 花形武, 遠藤直哉, 池田恒男
野の花診療所に学ぶ	がん看護 11号(南江堂)	200311	
■2004年(平成16年)			
〈講演〉医事法学への轉進—志したこと, 求めたもの	法と精神医療 18号	200403	法と精神医療学会第18回大会(2003年3月29日)における講演「医事法学への歩み」を改題し, 多少の添削をほどこしたものの
法理としてのインフォームド・コンセントとその誕生(医の倫理—ミニ事典)	日本医師会雑誌 131巻5号	200403	

インフォームド・コンセントと患者の自己決定権	倫理委員会ニュース 22号（北里大学医学部・病院倫理委員会）	200403	
■2005年（平成17年）			
『医療と法と倫理—資料文献目録』（第Ⅲ期版）	有限会社アレス 印刷	200505	【編集・刊行】
〈講演〉私にとっての法学史の断層	ケース研究 283号	200505	第31回全国家事調停女性委員懇談会仙台大会（平成16年6月4日）（テーマ「家族観の変容と家事調停」）における講演
「医学系大学倫理委員会連絡会議」について	倫理委員会ニュース 23号（北里大学医学部・病院倫理委員会）	200506	
〈巻頭言〉代諾は近道ではない	生命倫理 15巻1号	200509	
■2006年（平成18年）			
「氏」ないし「氏論議」を論ずる	辻村みよ子[監]，水野紀子[編]『家族—ジェンダーと自由と法』（東北大学21世紀COEプログラムジェンダー法・政策研究叢書 第6巻），東北大学出版会	200611	
■2007年（平成19年）			
坂上正道先生を偲んで	倫理委員会ニュース 25号（北里大学医学部・病院倫理委員会）	200703	
患者としての鶴見和子さん	環 Vol. 28（特集・鶴見和子の「詩学」）（2007冬）藤原書店	200703	
■2008年（平成20年）			
弔辞	太田知行・荒川重勝・生熊長幸[編]『民事法学への挑戦と新たな構築』（鈴木禄弥先生追悼論集），創文社	200812	2006年12月22日に逝去された故鈴木禄弥氏への弔辞

唄 孝一先生文献目録

2011年（平成23年）9月11日発行

編集 「唄 孝一先生を偲ぶ会」発起人一同

刊行 唄 脩

刊行・問合せ 明治大学法学部「医療と法と倫理（ELM）専門総合資料館」（仮称）
創立推進事業準備室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

研究棟地下1階ローライブラリ内

TEL 03-3296-4530 E-mail elm@meiji.ac.jp

印刷 株式会社膳栄社 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-2-12
